

令和4年度採択 文部科学省  
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

「多職種連携とDX技術で融合した  
北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

令和5年度 事業成果報告書

弘前大学

令和4年度採択 文部科学省  
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

「多職種連携とDX技術で融合した  
北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

令和5年度 事業成果報告書

弘前大学



# 目次

事業責任者 弘前大学理事（教育担当） 挨拶 .....	1
弘前大学大学院医学研究科長 医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター長 挨拶 ..	2
秋田大学大学院医学系研究科長 挨拶 .....	3
1. 事業概要 .....	5
2. 実施体制 .....	11
3. 実施内容 .....	15
4. 外部評価 .....	47
5. 参考資料 .....	51





## 事業責任者 弘前大学理事（教育担当） 挨拶

---

弘前大学は、令和4年度に文部科学省による大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の拠点に採択されました。本事業は、秋田大学、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学と連携し、「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」をテーマとして、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としています。

本事業の2年目にあたる令和5年度は、弘前大学では、地域災害対応教育、多職種連携教育、デジタル教育が実践され、秋田大学では、デジタル教育の充実と、学外施設との連携に着手しています。また、遠隔画像カンファレンスのシステムが構築・導入され、学外臨床実習施設等と連携が強化されるなど、北東北地域でのニーズの高い総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーの育成に向けて、着実に進んでいることを実感しております。

引き続き、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



事業責任者  
弘前大学理事（教育担当）  
岡崎 雅明

## 弘前大学大学院医学研究科長 医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター長 挨拶

---

令和4年度に、弘前大学は、文部科学省公募の大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における全国11拠点の一つに選定され、研究科附属地域基盤型医療人材育成センターを設置しました。

本センターは、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供できる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点となることを目的としています。

事業2年目となる令和5年度からは、地域災害対応マネージャー（防災士）育成コース、多職種連携演習・実習コース及び多職種連携事例検討ワークショップを開催するなど、本学医学部は本センターを介して、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学と連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育を実施しております。

令和5年度の事業成果をまとめましたので、ここに報告させて頂きました。  
よろしくお願い申し上げます。



弘前大学大学院医学研究科長  
医学研究科附属地域基盤型  
医療人材育成センター長

石橋 恭之

## 秋田大学大学院医学系研究科長 挨拶

---

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」令和5年度事業完了にあたり、ご挨拶申し上げます。

世界でもトップレベルの高齢化と人口減少の先進地域である北東北の青森県、秋田県にとって、地域住民や患者に良質な医療サービスを提供する医療人の教育・育成は最重要課題であり、その課題達成にはデジタル化、遠隔化が大きなポイントと考えております。

弘前大学が代表となり牽引、リーダーシップを発揮されている本事業において、本学では、すべての卒業生に医療連携・多職種連携を含めた総合的診療能力に長けていただくために、学内の基礎・社会・臨床医学全講座と秋田県内医療機関の指導医・指導者が協力し、統一化された医学・医療教育を推進・遂行できるよう、デジタル教育コンテンツと提供システム構築に主眼をおいてきました。この医学・医療教育のデジタル化と本事業の遂行・推進のために、令和4年12月1日、秋田大学大学院医学系研究科に「先進デジタル医学・医療教育学講座」、ならびに「デジタル医学・医療教育推進センター」を開設し、順次人員を配置してきました。

上記体制構築と共に、1) 基本的診療技能に関する各分野デジタル教材の作成を開始、2) 臨床実習にご協力をいただいている県内医療機関の指導者と教育内容を共有するe-ラーニングネットワーク体制の構築、3) 病院内の全学生・職員向けネットワーク環境整備、4) オンラインシミュレーションセミナーの共有計画、等を進めてまいりました。

今後、弘前大学、秋田大学ならびに青森県内の参画2大学の特徴を生かした各種デジタル教育コンテンツの開発・共有や、学内～県内ネットワークを生かした



た効果的な医学教育が可能となり、本事業の目標を達成することが期待されます。このような機会をいただきましたこと、感謝申し上げます。本事業の推進・発展のために、秋田大学医学部職員一同、秋田県内の関係各位のご協力を仰ぎながら鋭意、力を尽くしたいと考えております。

秋田大学大学院医学系研究科長

羽渕 友則



# 1. 事業概要

---

Outline



## 【1】ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業とは

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域における医療体制の見直しや医師の地域偏在及び診療科偏在を解消する重要性が再認識されるとともに、高度医療の浸透や地域構造の変化（総合診療医の需要の高まり、難治性疾病の初期診断・緩和ケアの重要性等）を踏まえた新時代に適応可能な医療人材の養成といった課題が浮き彫りとなったところ、これらの課題解消に資するためにも、地域にとって必要な医療を提供することができる医師を養成するための学生への学部段階からの動機づけ・資質能力の育成を図る実習・講義等の教育プログラムの更なる充実が求められている。

本事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。

## 【2】「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業

### 1. 事業概要

弘前大学は、文部科学省が公募した大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の全国11拠点のうち一つに選定された。

同事業は、大学医学部における養成課程の段階から医師の地域偏在及び診療科偏在や高度医療の浸透、地域構造の変化等の課題に対応するため、将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。

選定された本学の事業は「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」と題し、本学医学部、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としている。

参画4校の教育資源を医学教育クラウドプラントで共有し、医学教育専門家が多職種連携の要素を組み込み、青森県と秋田県内で運用できるように精錬し、このプロセスを通じて北東北で共有可能なオンデマンド教材や教育プログラムなどの教育資源（地域医療教育コモンズ）を創出して、北東北地域でのニーズの高い総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成する予定である。



## 2. 教育プログラム

本事業で構築した「多職種連携」、「遠隔教育・データサイエンス」、「救急・被ばく医療教育」、「総合診療・感染症教育」を核とする教育プログラムを受講した学生が、地域ニーズの高い医療へキャリア展開をすることで、将来深刻化する過疎化により増加するへき地医療に従事する総合診療医養成、新興感染症パンデミックや複合災害に迅速に対応可能な救急・災害医療体制の確立、パンデミック・災害の双方に対応可能な遠隔診療体制の整備を図り、北東北、ひいては高齢化と人口減少が想定されている日本国内の他の地域や諸外国に対しても、本事業での成果を普及させることで、社会に貢献していく。

## 3. 事業目標

- ・地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ量産
- ・地域枠学生の定着率5%増もしくは100%達成
- ・全ての医学生が卒業までに防災士資格取得
- ・総合診療領域の医師数が地域枠入学者数の約2割に到達
- ・救急および感染制御を専門とする医師数を約3倍に増加

# ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 (弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学) 多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ

## 課題・背景

- 2045年までに北東北は高齢化と人口減少が進行し、過疎化が深刻化
- 臓器別専門医学では解決できない問題を持つ患者・住民が増加

## 解決策

- 総合的な視点（住民のライフサイクル・地域・多職種連携）を涵養する医学教育
- 急性期・慢性期患者の複合的問題・パンデミックに対応できる総診・救急・感染症医養成
- 北東北2国立大医学部の医学教育グッドプラクティスを融合する教材クラウドプラットフォーム創設

## 事業内容

- 地域医療教育コモンズ創出
  - ◆ 総合診療（地域医療）・救急・感染症教育等の教育マテリアルを教材クラウドプラットフォームに投入
  - ◆ 専従医学教育専門家がユニバーサルな形態に加工
  - ◆ 創出された地域医療教育コモンズを文脈毎に活用
- アウトプット・アウトカム**
1. 地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ量産
  2. 地域枠学生の定着率5%増もしくは100%達成
  3. 全ての医学生が卒業までに防災士資格取得
  4. 総合診療領域の医師数が地域枠入学者数の約2割に到達
  5. 救急および感染制御を専門とする医師数を約3倍



# 多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ







# 秋田大学【総合的な診療能力育成/6年間一貫デジタル教育ハイブリッドプログラム】

**本連携事業：多職種連携とDX技術で融合した  
北東北が創出する地域医療教育コモンズ**

1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション能力
3. 医学各分野および関連領域の知識とその応用
4. 実践的臨床能力
5. リサーチマインド・問題解決力
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力

## 『37症候・病態』『医療連携』症例・事例ベースのデジタルコンテンツ

継続的拡充



**目標：卒業生全員の総合的な診療能力を向上  
⇒ 地域医療を維持し感染症対応できる  
『総合診療専門医』・『総合力ある各科専門医』**



**学内・学外指導者  
デジタルコンテンツを共有**  
⇒ 教育効果を継続的に向上！  
⇒ 目標に向かって6年間一貫水平・垂直統合教育推進！

**『基礎・社会・臨床医学講義』・『多職種連携教育』  
『各種シミュレーション教育・感染症対応等』・  
『診療参加型臨床実習』  
⇒ デジタルコンテンツ活用による質保証**

**各種『評価』・パフォーマンス評価**  
・態度評価  
・知識(想起・解釈・問題解決レベル)  
⇒ デジタルコンテンツ活用による質保証



## 2. 実施体制

---

Organization



## 【1】弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター

### 1. 地域基盤型医療人材育成センターの設置

この事業を実施する体制として、令和4年10月1日付けで医学研究科に「地域基盤型医療人材育成センター」を設置した。

同センターは、医師の地域偏在及び診療科偏在、地域構造の変化などの課題に対応するため、連携校及び協力校並びに協力機関と連携し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人材の育成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的としている。



地域基盤型医療人材育成センターを設置

### 2. 地域基盤型医療人材育成センター運営会議

センターの管理運営を円滑に行うため、センターに運営会議を設置した。

### 3. 教育カリキュラム専門部会

教育カリキュラムの開発、編成及び広報等に関する事項を検討するため、運営会議に教育カリキュラム専門部会を設置した。

### 4. 事業評価専門部会

事業評価に関する事項を検討するため、運営会議に事業評価専門部会を設置した。

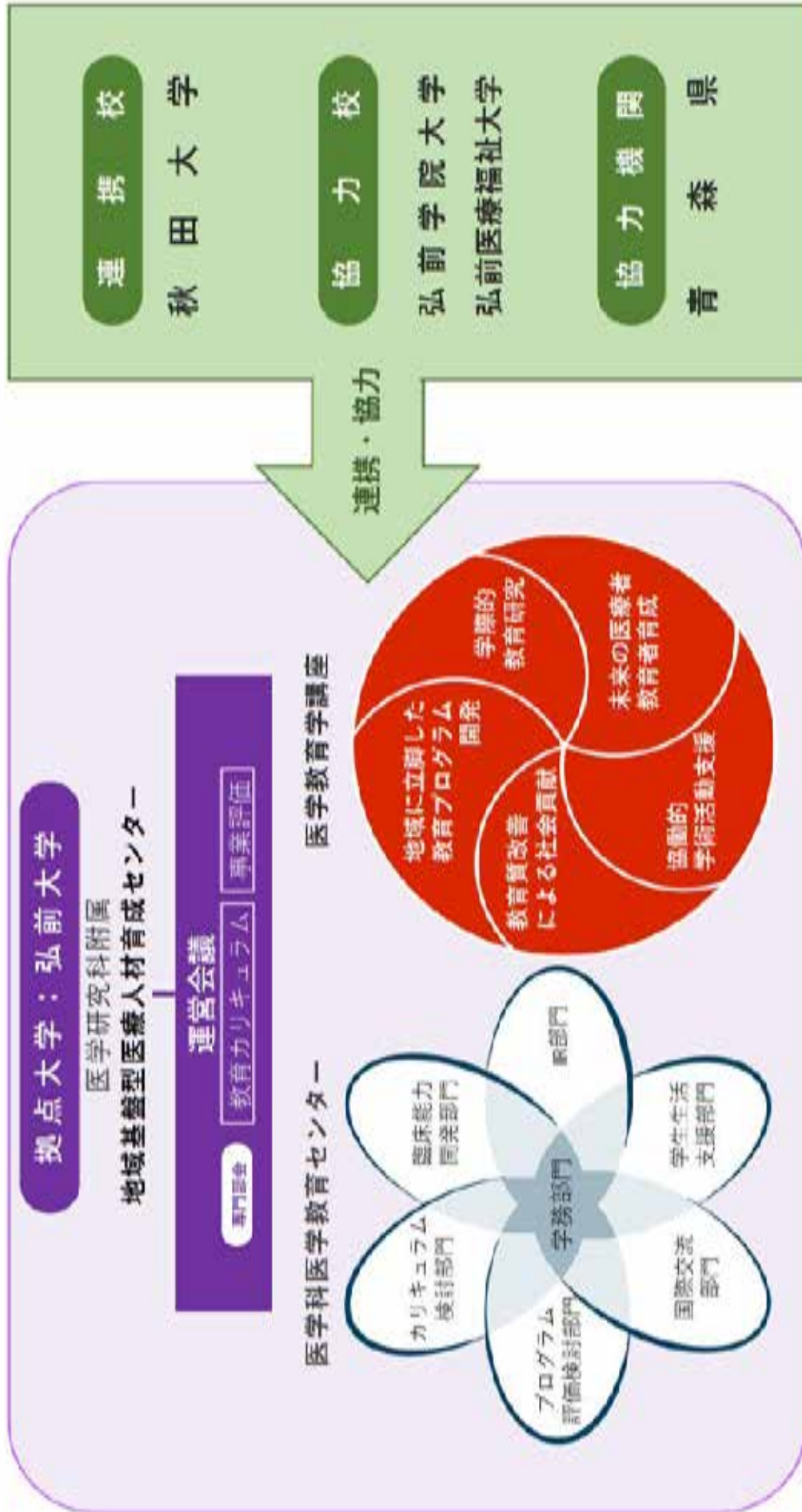


## 5. ワーキンググループ（WG）

新規の教育プログラムの開発・検討等を行うため、各WGを設置した。

- ・多職種連携WG
- ・遠隔診断・データサイエンスWG
- ・救急・被ばく・感染症WG

弘前大学「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」実施体制





# 3. 実施内容

---

Contents



## 【1】会議・専門部会等

### 1. 地域基盤型医療人材育成センター運営会議の開催

令和5年12月22日（金）に弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議をアートホテル弘前シティで開催した。

同センターの運営会議は、同センターの構成員に加え、事業責任者である本学理事（教育担当）並びに本学医学部、秋田大学医学部、弘前学院大学及び弘前医療福祉大学の代表者等に青森県健康福祉部長を加えた11名により構成されている。

今回の会議では、出席者紹介後、同センター副センター長である医学教育学講座鬼島宏教授から、本学医学部及び秋田大学医学部の令和4年度事業実績と評価及び令和5年度実施状況と今後の計画について説明がなされた。

- 議 事
- 1 令和4年度事業実績と評価について
  - 2 令和5年度実施状況と今後の計画について
  - 3 その他



運営会議の議事を進行する廣田センター長



説明をする鬼島副センター長



運営会議の様子

## 2. 教育カリキュラム専門部会の開催

令和6年2月16日（金）、本学医学研究科内において、教育カリキュラム専門部会を開催した。

- 議 事
- 1 令和4・5年度教育カリキュラムの実施状況について
  - 2 令和6年度教育カリキュラムの実施計画について
  - 3 その他



専門部会の議事を進行する廣田部会長



説明をする鬼島教授（弘前大学）



説明をする及川特任教授（秋田大学）



教育カリキュラム専門部会の様子



### 3. 秋田大学との打合せ

本事業の進捗状況等について、秋田大学との打合せを以下のとおりオンラインにより行った。

- ・日 時 令和5年10月25日（水）10：30～  
議 事 1 令和4年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する事業実績と評価について  
2 令和5年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関する進捗状況について  
3 その他
  
- ・日 時 令和6年1月31日（水）13：30～  
議 事 1 令和4・5年度教育カリキュラムの実施状況について  
2 令和4年度事業の実施状況と評価について  
3 令和5年度事業の実施状況と評価について  
4 令和6年度教育カリキュラムの実施計画について  
5 その他



打合せの様子



#### 4. 第2回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムの開催

令和5年12月22日（金）、令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」第2回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムをアートホテル弘前シティにて開催し、教職員、学生、自治体関係者等ら約50名が参加した。

シンポジウムは、本事業責任者である本学郡千寿子理事からの挨拶の後、第一部では佐賀大学医学部副医学部長（教育担当）・地域医療科学教育研究センター長小田康友教授から「卒前卒後教育をつなぐLearning Societyの形成」と題し、特別講演が行われた。

続いて第二部では、「多職種連携と屋根瓦式教育について」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。パネリストを本学医学教育学講座野村理助教、秋田大学先進デジタル医学・医療教育学講座及川沙耶佳特任教授、本学医学部医学科6年秋田優里菜さんと同保健学科4年八幡恭輔さんが、コメンテーターを佐賀大学医学部小田康友教授、コーディネーターを本学医学教育学講座鬼島宏教授が務め、各パネリストから発表された後、活発に意見交換が行われた。

最後に、本学の廣田和美研究科長から、来年度以降も参画4校が連携して多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育を展開していく旨の挨拶により閉会となった。



郡理事（教育担当）



佐賀大学 小田教授



医学教育学講座 野村助教



秋田大学 及川特任教授



医学教育学講座 鬼島教授



廣田研究科長（センター長）



シンポジウム（パネルディスカッション）の様子



シンポジウムの様子



令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

## 第2回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する 地域医療教育コモンズ」事業シンポジウム

日 時：令和5年12月22日（金）15:00～17:00

場 所：アートホテル弘前シティ3階 エメラルド

### 【プログラム】

#### 15:00～15:05 開会挨拶

弘前大学理事（教育担当）  
事業責任者

郡 千寿子

#### 15:05～15:55 特別講演

演題：「卒前卒後教育をつなぐ Learning Society の形成」

講師：佐賀大学医学部 教授 副医学部長（教育担当）

地域医療科学教育研究センター長

小田 康友氏

#### 15:55～16:05 休 憩

#### 16:05～16:55 パネルディスカッション

テーマ：「多職種連携と屋根瓦式教育について」

コーディネーター：弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座教授

鬼島 宏

パネリスト：弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座助教

野村 理

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻医学教育学講座教授

長谷川 仁志

弘前大学医学部医学科6年

秋田 優里菜

弘前大学医学部保健学科4年

八幡 恭輔

コメンテーター：佐賀大学医学部 教授 副医学部長（教育担当）

地域医療科学教育研究センター長

小田 康友氏

#### 16:55～17:00 閉会挨拶

弘前大学大学院医学研究科長

廣田 和美

## 5. 第2回全国フォーラムへの参加

令和6年1月19日（金）、千葉大学医学部附属病院において全国フォーラムが開催され、採択された11拠点の大学が事業報告を行った。

本学からは医学研究科長、専任教員、事務職員、秋田大学からは専任教員、事務職員が参加した。

### プログラム

- 13：00～13：05 開会挨拶  
中谷 晴昭（千葉大学理事/事業責任者）
- 13：05～13：10 来賓挨拶  
俵 幸嗣（文部科学省高等教育局医学教育課長）
- 13：10～14：30 各拠点大学からの事業報告
- 14：30～14：40 休憩
- 14：40～15：10 質疑・総合討論
- 15：10～15：15 講評  
俵 幸嗣（文部科学省高等教育局医学教育課長）
- 15：15～15：20 次回フォーラム開催案内
- 15：20～15：30 閉会挨拶  
三木 隆司（千葉大学医学部長）  
盛田 俊介（東邦大学医学部長）



事業報告をする鬼島教授



質疑応答・総合討論の様子



ポストコロナ時代、医療人材養成拠点形成事業  
第2回 全国フォーラム

2024年3月19日(水) 13:00~15:30

多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ

弘前大学大学院医学研究科  
地域基盤型医療人材育成センター・副センター長  
医学教育学講座・教授  
鬼島 宏

HIROSAKI UNIVERSITY

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業  
(弘前大学、秋田大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学)

多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ

課題・背景  
① 2045年までに北東北は高齢化と人口減少が進行し、過疎化が深刻化  
② 医師数減少が深刻で、地域医療の維持が困難

解決策  
① 新たな視点(住居のライフサイクル、地域・多職種連携)を軸とする医学教育  
② 急性期・慢性期患者の効率的対応、バリエーションに対応できる医師・技師、地域医療の発展に貢献する医学教育プラットフォームを創出する(教材クラウドプラットフォーム)

事業内容  
① 地域医療教育コモンズ創出  
● 知能診断(地域医療)、救急・災害医療教育等の教育マテリアルを教材クラウドプラットフォームに導入  
● 高度医学教育専門家がユニバーサルな形態に加工  
● 創出された地域医療教育コモンズを文脈的に活用

アウトプット・アウトカム  
1. 地域医療教育プラットフォーム・デジタルコンテンツ構築  
2. 地域域学生の定着率5%増もしくは100%達成  
3. 全ての医学生が卒業までに防災士資格取得  
4. 総合診療科の志願者が地域域入学希望の約2割に到達  
5. 救急および災害対応を専門とする医師数を約2倍

多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ  
弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ

代表的プログラム

1. 字どろむろさき 多職種連携WS
2. 防災医療人材育成コース
3. 過剰医療コミュニケーション
4. 地域基盤型医学教育

プログラムにより養われる能力・素力  
● 多職種連携能力  
● 総合的に患者・地域住民と協働する能力  
● 人への関わり、高齢化などの社会的課題に医療的視点から対応する力

作成するオンデマンド教材  
● 総合診療、多職種連携  
● 救急・集中治療・災害・防災学  
● 過剰医療  
● 内科系・外科系プライマリリア

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次

多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ  
弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ

1. 字どろむろさき 多職種連携WS

プログラムにより養われる能力・素力  
● 多職種連携能力  
● 総合的に患者・地域住民と協働する能力  
● 人への関わり、高齢化などの社会的課題に医療的視点から対応する力

作成するオンデマンド教材  
● 総合診療、多職種連携  
● 救急・集中治療・災害・防災学  
● 過剰医療  
● 内科系・外科系プライマリリア

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次

令和5年度 早期体験実習(Early Exposure)・基礎看護学実習1

1. 科目名・必修選択の項  
医学科 臨床医学入門・早期体験実習・必修  
保健学科 看護学専攻 基礎看護学実習1・必修

2. 目的・目標  
【目的】健康生活上のニーズをもとめ、心身および生活上の反応や問題をもちている人に対して、どのような看護援助を行っているのかを知り、それぞれの専門職士実践するための基礎的・基本的知識、技術、態度を修得する。  
【目標】  
1. 対象となる人の生活状況や看護環境を理解できる。  
2. 対象となる人の心理を知ることができる。  
3. 対象となる人の病むこと、入院・治療を受けることの機運を理解できる。  
4. 対象となる人への看護活動の機運が理解できる。  
5. 対象となる人を取り巻く看護チームメンバーの役割や連携の概要について理解できる。

医学科112名+保健学科80名(192名) → 4グループ  
4.5日(45時間)  
・ オリエンテーション(1日)  
・ 講義(1日)  
・ 病院実習(3日)  
・ まとめカンファレンス(0.5日)

科目名	単位数	履修年次	履修時期	履修形態	履修場所	履修人数
臨床医学入門	1	1	1	講義	弘前大学	112
早期体験実習	1	1	1	実習	弘前大学	112
基礎看護学実習1	1	1	1	実習	弘前大学	80

多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ  
弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ

2. 防災医療人材育成コース

プログラムにより養われる能力・素力  
● 多職種連携能力  
● 総合的に患者・地域住民と協働する能力  
● 人への関わり、高齢化などの社会的課題に医療的視点から対応する力

作成するオンデマンド教材  
● 総合診療、多職種連携  
● 救急・集中治療・災害・防災学  
● 過剰医療  
● 内科系・外科系プライマリリア

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次

背景・目的 北東北(青森県)における災害・被災く医療

災害  
・ 2020年4月に内閣府が公表した「日本海溝・千島海溝沿い巨大地震モデル」を反映した被災想定によると、青森県では最大5万人以上の死者が発生すると予想されている

被災く  
・ 2011年3月の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により被災く医療の重要性が認識  
・ 特に青森県は全国でも有数の原子力関連施設を保有する自治体

本県の最大クラスの地震・津波被害想定  
死者 約5,300人  
避難者 約11万1,000人  
避難所 約31万1,000人  
避難期間 約65,300人日

災害医療・被災く医療教育の充実、人材育成が課題であること(目標)  
⇒ 弘前大学の教育に、これらを取り込む活動(目標)

防災医療人材育成コース → 防災に関する教養教育

◆ 令和5年度より教養教育科目群に防災に関する科目を3つ設置

科目① 災害原理と防災  
科目② 災害医療・情報  
科目③ 被災く医療基礎

科目①、②を履修 → 防災士受験資格を得られる  
科目①、③を履修 → 学修番号「弘前大学災害対応マネージャー」を得る

弘前大学 災害・被災く医療教育センターと連携して3科目設置

医学部医学科 : 112名 (1年次全員履修)  
医学部保健学科 : 3名  
理工学科 : 30名  
人文社会科学部 : 8名  
教育学部 : 8名  
農学部 : 1名  
計163名 ※うち、防災士受験希望が157名

注) 防災士受験受験の為にオンデマンド形式(または日本防災士機構の方針)



**防災医療人材育成コース → 防災に関する教養教育**

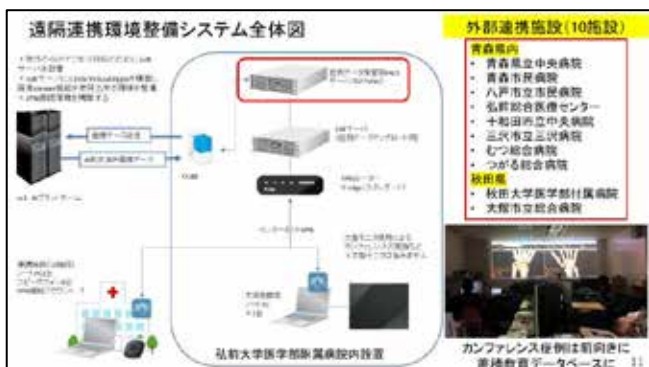
災害基礎と防災		防災士養成資格		災害医療・情報		地域医療基礎	
科目	講義名	科目	講義名	科目	講義名	科目	講義名
1	防災学	1	防災学	1	防災学	1	防災学
2	地震・津波①	2	災害医療とこころのケア	2	エネルギー・原子力災害概論	2	エネルギー・原子力災害概論
3	地震・津波②	3	地域災害時の人的被害	3	放射線および放射能汚染	3	放射線および放射能汚染
4	気象災害・風水害	4	災害救助と補償	4	放射線の人体にもたらす影響	4	放射線の人体にもたらす影響
5	風水害・土砂災害等への備え	5	災害関連職種と予備・整備	5	放射線の基本的安全管理	5	放射線の基本的安全管理
6	土砂災害①	6	災害関連職種と予備・整備	6	原子力災害概論	6	原子力災害概論
7	土砂災害②	7	被害防止・ハザードマップと避難	7	原子力災害における私学大学の役割	7	原子力災害における私学大学の役割
8	火山災害①	8	災害情報の収集と発信	8	福島から学ぶ①：環境測定	8	福島から学ぶ①：環境測定
9	火山災害②	9	行政の災害対策と危機管理	9	福島から学ぶ②：生物影響	9	福島から学ぶ②：生物影響
10	広域・大規模災害①	10	行政の災害救助・応急対策	10	福島から学ぶ③：環境動態	10	福島から学ぶ③：環境動態
11	広域・大規模災害②	11	復興・復興と被災者支援	11	福島から学ぶ④：放射線リスク	11	福島から学ぶ④：放射線リスク
12	備前災害	12	ライフライン・交通インフラの確保	12	福島から学ぶ⑤：原子力防災概論	12	福島から学ぶ⑤：原子力防災概論
13	自然防災訓練と地域防災計画	13	自然環境の災害対応	13	福島から学ぶ⑥：原子力防災の現実	13	福島から学ぶ⑥：原子力防災の現実
14	避難所の設置と運営協力	14	地域防災と多様性への配慮	14	福島から学ぶ⑦：原子力災害と命	14	福島から学ぶ⑦：原子力災害と命
15	防災士に期待される役割	15	災害ボランティア活動	15	原子力災害の復興と避難	15	原子力災害の復興と避難
16	防災士が行う各種訓練	16	まとめ	16	準備	16	準備

**多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ**  
私学入学生医学部医学科カリキュラムマップ

3. 遠隔医療コミュニケーション

DXへの対応力育成に不可欠な遠隔医療コミュニケーション (遠隔医療) に関する教育

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次



**多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ**  
私学入学生医学部医学科カリキュラムマップ

4. 地域基盤型医学教育

DXへの対応力育成に不可欠な遠隔医療コミュニケーション (遠隔医療) に関する教育

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次



**秋田大学【総合的な診療能力育成/6年間一貫デジタル教育ハイブリッドプログラム】**

先進デジタル医学・医療教育学講座 / デジタル医学・医療教育推進センター

37種(病型)・「臨床連携」症例・事例ベースのデジタルコンテンツ

目標：卒業生全員の総合的な診療能力を向上  
→ 地域医療を維持し感染対応力できる  
「総合診療専門医」・「総合力ある各科専門医」

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次

**秋田大学【総合的な診療能力育成/6年間一貫デジタル教育ハイブリッドプログラムを推進する部門】**

先進デジタル医学・医療教育学講座

デジタル医学・医療教育推進センター

総合臨床教育研修センター

総合診療・総合診療学講座  
総合診療センター

医学教育学講座

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次

**★大学と県内医療機関との教材共有による臨床実習教育の強化★**

将来構想 Web Classのアカウント付与による県全体での教育連携とその効果分析

【今年度に行っているデジタル教材の件数】

- 27年間の臨床実習の授業教材 4年 (2年次～)
- 5年間のe-ラーニング教材 20年 (4年次～)
- プライマリケア心臓・脳神経・心電図教材 10年 (2年次～)
- 地域医療に関する教材 10年 (5年次～)
- その他各種教材

1年次 2年次 3年次 4年次 5年次 6年次

**症候ベースの統合カンファレンス(毎週金曜日14時20分～17時10分)**  
**—TBL(臨床実習チーム基盤型学習)—**



授業の様子 講義予定表(全36コマ) 動画教材

★オンデマンド化に向けた動画教材作成★  
 近未来型：フラッシュカードや症例ベースのテストなどを盛り込んだ双方向性教材

初年次ゼミ デジタル動画での学期末試験：知識評価  
 問題解決実践レベルの総合的なパフォーマンス評価に近づける試み

★デジタル教材による自学・演習と試験



**オンラインシミュレーション実習**  
 一気に大人数可能となり、総合力アップのための効果的なシミュレーション教育が可能になる



Zoom用PCを4台設置し臨場感を高める

**ニーズに合わせたデジタル教材の開発と、県内医療機関との教材共有**



秋田大学 医学生 デジタル学習アンケート

地域医療の魅力を伝える3D解剖動画

アンケートによるデジタル学習のニーズ調査

地域医療の多様な働き方に関する動画

医療従事者向け動画教材

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業**  
 (弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学)

**多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ**

**課題・背景**

- 2045年までに北東北は高齢化と人口減少が進行し、過疎化が深刻化
- 協議体専門医等では解決できない課題を持つ患者・住民が増加

**解決策**

- 総合的な地域（住居のライフサイクル・地域・多職種連携）を志向する医学教育
- 急性期・慢性期患者の適切な対応・パンデミックに対応できる知財・救急・感染症医療
- 北東北7国立大医学部の基幹教育プラットフォームを融合する教材クラウドプラットフォーム

**事業内容**

- 地域医療教育コモンズ創出
- 総合診療（地域医療）・救急・感染症教育等の教育マテリアルを教材クラウドプラットフォームに導入
- 遠隔医学教育専門家ユニバーサル化対応に加工
- 創出された地域医療教育コモンズを文部省に活用

**アウトプット・効果のまとめ**

1. 地域医療教育プログラム・デジタルコンテンツ開発
2. 地域診療士の実習率5%増もしくは100%達成
3. 全ての医学生が卒業までに臨床士資格取得
4. 総合診療領域の志願者が地域枠入学者の約2割に到達
5. 救急および感染症科を専門とする医師数を約1割増





## 【2】教育改革

### 1. 地域災害対応マネージャー（防災士）育成コース開講

令和5年4月に防災科学や災害医学を学習可能な防災士資格取得対応コース（2科目）を開講し、医学部医学科1年生全員が履修した。

また、上記2科目に加えて原子力災害の歴史や医療について学習可能な科目も開講し、これら3科目の履修を以て学内独自称号『弘前大学災害対応マネージャー』を付与することとしている。



講義の様子



救命講習の様子

### 防災に関する教養教育

◆ 令和5年度より教養教育科目群に防災に関する科目を3つ設置

科目①	災害原理と防災		科目②～③を修了 →防災士受験資格 を得られる	科目①～③を修了 →学内称号『弘前大学災害対応 マネージャー』を付与	災害医療・情報		科目④	被ばく医療基礎	
	科目名	単位数			科目名	単位数		科目名	単位数
1	ガイダンス	1	1	ガイダンス	1	1	ガイダンス	1	ガイダンス
2	地震・津波①	2	2	災害医療とこのころのケア	2	2	エネルギー・原子力災害概論	2	エネルギー・原子力災害概論
3	地震・津波②	2	2	地震災害時の人的被害	3	3	放射線および放射線同位元素	3	放射線および放射線同位元素
4	気象災害・風水害	4	4	耐震診断と補強	4	4	放射線の人体に与える影響	4	放射線の人体に与える影響
5	風雪害・土砂災害等への備え	5	5	災害と情報保障	5	5	放射線の基本的な安全管理	5	放射線の基本的な安全管理
6	土砂災害①	6	6	災害関連情報と予報・警報	6	6	原子力災害概要	6	原子力災害概要
7	土砂災害②	7	7	被害想定・ハザードマップと避難	7	7	原子力災害における弘前大学の活動	7	原子力災害における弘前大学の活動
8	火山災害①	8	8	災害復元の理念と実践	8	8	福島から学ぶ①：環境測定	8	福島から学ぶ①：環境測定
9	火山災害②	9	9	行政の災害対応と危機管理	9	9	福島から学ぶ②：生物影響	9	福島から学ぶ②：生物影響
10	高層・大規模火災①	10	10	行政の災害対応・応急対策	10	10	福島から学ぶ③：環境動態	10	福島から学ぶ③：環境動態
11	高層・大規模火災②	11	11	復興・復興と被災者支援	11	11	福島から学ぶ④：放射線リスク①	11	福島から学ぶ④：放射線リスク①
12	複合災害	12	12	ライフライン・交通インフラの確保	12	12	福島から学ぶ⑤：原子力防災規制	12	福島から学ぶ⑤：原子力防災規制
13	自主防災隊と地域防災計画	13	13	自衛隊の災害対応	13	13	福島から学ぶ⑥：原子力施設の防災	13	福島から学ぶ⑥：原子力施設の防災
14	避難所の設置と運営協力	14	14	地域防災と多様性への配慮	14	14	福島から学ぶ⑦：原子力災害医療	14	福島から学ぶ⑦：原子力災害医療
15	防災士に関する活動	15	15	災害ボランティア活動	15	15	原子力災害の復興と課題	15	原子力災害の復興と課題
16	防災士が行う各種訓練	16	16	まとめ	16	16	学習法	16	学習法

注）防災士資格受験の条件はオンライン形式は不可（日本防災士機構の方針）



## 2. 多職種連携ワークショップの実施

令和5年6月16日（金）、本学医学部講義棟において、4年次医学生対象の医療安全学の授業に保健学科看護学専攻の学生が参加し、多職種連携ワークショップが実施された。



ワークショップの様子

### 3. 医療系多職種連携合同演習の実施

令和5年9月16日（土）、本学医学部学生支援センター2号棟において、本学医学部医学科・保健学科、弘前学院大学、弘前医療福祉大学の学生が参加し、医療系多職種連携合同演習が実施された。



合同演習の様子

弘前大学医学部合同演習

## 医療系多職種連携に関する授業 (保健学科:保健学概論演習)

令和5年9月16日(土)  
 医学科学務委員長 鬼島 宏  
 保健学科学務委員長 藤田 あけみ  
 保健学科 藤田 俊文・北宮 千秋  
 工藤 幸清・藤岡 美幸  
 田中 真・富澤登志子

## 【授業の目的】

これまで学習してきた医学・保健の専門領域の知識や技術を活用し、今日の保健医療の課題について相補的に学ぶプロセスを通して、専門職種間の連携について理解する。

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
<h3>本日のスケジュール</h3> <p>12:30 集合                      12:30 授業開始                      12:30~13:00 オリエンテーション                      13:00~15:00 グループワーク                      15:00~15:20 写真に取り込み                      15:20~16:40 発表・質疑応答                      16:40~17:00 教員のコメント</p> <p>※グループワーク中に適宜、休憩をとってください</p>			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
<h3>オリエンテーション</h3> <p>1. チームビルディング (他己紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2人1組、3人1組になり、他の人に紹介するためにお互いにインタビューをして情報収集してください (3分)  <small>好きな食べ物、好きな季節、今、興味のあること、やってみたいこと、この授業への意気込み etc.</small></li> <li>他のメンバーに1人2分位で紹介してください (15分)</li> </ul>			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
<h3>オリエンテーション</h3> <p>2. 事例の課題についてグループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模造紙に事例の「生活の課題と対策」を表現する</li> <li>ワークのすすめかたは各グループに一任</li> </ul> <p>3. 発表 15:20~</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表前の休憩時間に模造紙の成果を写真に取り込み、プロジェクターに映して発表</li> <li>発表時間 5分 質疑応答 5分</li> </ul> <p>4. 教員からコメント</p>			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
<h3>グループワーク課題</h3> <p>【事例】</p> <p>弘前市在住、弘前城雄（ひろさきしろうお、男性、55歳）、2015年春頃より歩行時にふらつく感じがあることに気づいた。徐々に、体の動かしにくさや筋肉がこわばる感じに加えて、呼吸のしにくさや転倒が増えてきた。特に睡眠時の喘鳴や無呼吸なども見られてきた。その後、2016年春にかかりつけ医に相談したところ、精密検査を進められ大学病院を紹介され受診した。</p> <p>精密検査（血液検査、頭部X線・CT・MRIなど）の結果、小脳、橋の萎縮を認め、T2強調画像水平断で橋中部に十字状の高信号、中小脳脚の高信号化が認められた。検査結果より、「○○○」と診断された。</p>			

スケジュール	オリエンテーション	課題	発表
<h3>グループワーク課題</h3> <p>【事例】 つつき</p> <p>弘前さんは、2012年より高血圧症と脂質異常症、Ⅱ型糖尿病のためかかりつけ医に通院し、内服薬を服用していた。同居家族は50歳の妻；桜子と息子夫婦（息子25歳、息子妻24歳）と孫（1歳）である。城雄さんは会社員であり、体調を崩す前は家族旅行（家族でデイスニーランドなど）が趣味で年に1回は行っていた。妻は医療事務としてフルタイムで勤務しており、また息子夫婦は日中共働き、孫はこども園に日中は預けている。</p> <p>今回、検査の結果、「○○○」の診断となったが、弘前さんが可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、今後の「生活の課題と対策」について、「自分の専門性の視点」を含めて話し合ってください。加えて、医療・介護・福祉にかかわるさまざまな職種とどのような連携が必要かという視点も考慮してください。</p>			





Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



Fグループ



Gグループ



Hグループ

#### 4. 心肺蘇生学生（低学年）コースの開催

令和5年7月1日（土）、本学医学部附属病院内において、日本救急医学会認定のBLSコース「第1回Hiroasaki University BLS Course for Medical Trainees」を開催し、医学部医学科1年生15名、2年生1名、3年生4名がコースを修了した。



BLSコースの様子



## 5. 救急蘇生多職種学生（高学年）コースの開催

令和5年6月17日（土）及び令和6年1月21日（日）に本学医学部附属病院内において、日本救急医学会認定のICLSコース「第2、3回Hirosaki University ICLS Course for Medical Trainees」を開催し、第2回は医学部医学科6年生2名、5年生1名、保健学科看護学専攻4年生3名、第3回は医学部医学科5年生5名、4年生1名、保健学科看護学専攻3年生6名がコースを修了した。



第2回ICLSコースの様子



第2回ICLSコース修了後



第3回ICLSコースの様子

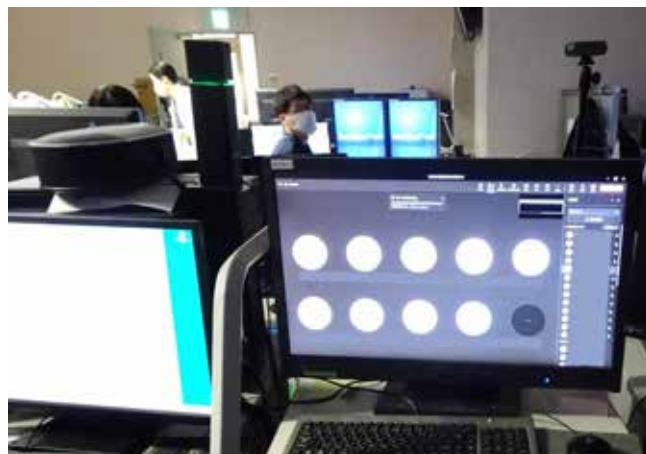


第3回ICLSコース修了後

## 6. 弘前大学医学部附属病院遠隔画像カンファレンス実施体制構築

弘前大学医学部附属病院内で整備された遠隔画像カンファレンスを実施するための体制を構築し、学生が参加する放射線診断カンファレンスシステムを運営した。

また、弘前大学と青森県、秋田県及び北海道内の臨床実習施設等とを連結した遠隔画像カンファレンスシステムを構築・導入し、教育効果の高いカンファレンスの運用を開始した。



遠隔画像カンファレンスシステム



カンファレンスの様子

## 7. 医学教育センター主催FDの開催

医学教育センター主催のFDを本学医学部基礎大講堂において、以下のとおり開催した。

【第1回】・日時 令和5年5月17日（水）18：00～19：00

・講師 鬼島 宏

（医学研究科医学教育学講座 教授）

・内容 共用試験（CBT・OSCE）公的化への対応

【第2回】・日時 令和5年7月19日（水）18：00～19：00

・講師 野村 理

（医学研究科医学教育学講座 助教）

・内容 医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）

<地域基盤型医療人材育成センター共催>

【第3回】・日時 令和5年9月20日（水）18：00～19：00

・講師 鬼島 宏

（医学研究科医学教育学講座 教授）

掛田 伸吾

（医学研究科放射線診断学講座 教授）

辻口 貴清

（被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター 助教）

- ・内容 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」  
 ー多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ  
 1. 多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ  
 2. 遠隔画像診断における地域コミュニケーション事業  
 放射線診断学の教育・診療について  
 3. 弘前大学における災害・被ばく医療の医学教育



医学教育センター主催FDの様子



- 【第4回】・日時 令和5年11月15日（水）18：00～19：00
- ・講師 高村 昭輝 氏  
（富山大学学術研究部医学系医学教育学講座 教授）
- ・内容 診療参加型臨床実習と地域基盤型臨床実習



富山大学 高村教授

- 【第5回】・日時 令和6年1月17日（水）18：00～19：00
- ・講師 長谷川 仁志 氏  
（秋田大学大学院医学系研究科医学専攻医学教育学講座 教授）
- ・内容 デジタル教材を用いた医学教育（秋田大学との合同Faculty Development）  
「初年次からの胸痛・臨床推論・医療面接OSCEにはじまる  
県内デジタル教育ネットワークを活用したコンピテンス基盤型6年間一貫  
水平・垂直統合教育の試み  
ーカリキュラムオーバーロード時代に、  
如何に新モデルコアカリキュラムの質を保証して生涯向上させるかー」



秋田大学 長谷川教授

## 8. 弘前大学医学部連携教育施設におけるFDの開催

医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的として、弘前大学医学部連携教育施設におけるFDを、以下のとおり開催した。

- ・日 時 令和5年5月24日（水）16：30～17：30  
対象施設 青森県立中央病院（オンライン）
- ・日 時 令和5年6月14日（水）16：30～17：30  
対象施設 三沢市立三沢病院（オンライン）
- ・日 時 令和5年7月12日（水）16：30～17：30  
対象施設 健生病院、弘前総合医療センター（対面）



【5月24日（水）開催】



【6月14日（水）開催】



【7月12日（水）開催】

## 9. パネルディスカッション「救急領域の Professional Identity Formation 促進のための医療系学生心肺蘇生プログラムの構築」の発表

令和5年6月3日（土）、第21回東北シミュレーション医学医療教育研究会大会において、パネルディスカッション「救急領域の Professional Identity Formation 促進のための医療系学生心肺蘇生プログラムの構築」の発表を行った。

<p>救急領域の Professional Identity Formation 促進のための 医療系学生心肺蘇生プログラムの構築</p> <p>Interprofessional Education Resuscitation Program for Promoting Professional Identity Formation of Health Professional Trainees</p>
<p>野村理<sup>1)</sup>，入江仁<sup>2)</sup>，杉山佳奈<sup>3)</sup>，木村良子<sup>4)</sup>，石岡理華<sup>5)</sup>，花田裕之<sup>6)</sup>， 富澤登志子<sup>7)</sup>，鬼島宏<sup>1)</sup></p> <p>1) 弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座 2) 弘前総合医療センター救急科 3) 津軽保健生活協同組合健生病院救急集中治療部集中治療科 4) やなぎ整形外科・漢方クリニック 5) 弘前大学医学部附属病院臨床試験管理センター 6) 弘前大学大学院医学研究科救急災害・総合診療医学講座 7) 弘前大学大学院保健学研究科看護学領域</p>
<p>キーワード：Professional Identify Formation、多職種連携、救急医療</p>
<p>質の高い救急医療を提供するためには、効果的な多職種連携は必要不可欠である。また、近年、医療者教育では職業人アイデンティティが人材育成の過程で周囲との関係性の中で形成される Professional Identity Formation (PIF) という概念が注目されている。そのため、医療系学生が早期から多職種連携を基盤とした救急蘇生コースを履修することで救急医療に関連した PIF が促進される可能性がある。弘前大学では、令和4年度より文部科学省補助事業ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の助成を受け、地域での救急医療等に素養のある医療人育成を目的に弘前学院大学、弘前医療福祉大学、秋田大学との連携を開始した。段階的な救急領域の PIF 促進のために、1)低学年医学生（1～3年生）を対象とした一次救命処置（日本救急医学会認定 BLS コース）、2)高学年医学生（4～6年生）を対象とした二次救命処置（日本救急医学会認定 ICLS コース）、3)高学年の医学生と看護学生（4～6年生）を対象とした多職種 ICLS コースで構成される希望者を対象とした実践的スキルを修得する双方向型プログラムを構築した。現段階では高学年医学生 ICLS コースが終了し、本年6月に多職種 ICLS、7月に BLS コースが計画されている。</p> <p>高学年 ICLS を受講した6名の医学生は「受け身のコースではなくインタラクティブで学生自身が考えながら行うコース」に高い評価を示し、「様々なシナリオに基づく、それぞれの役割を経験して、チーム医療の大切さを実感できた」と省察していた。また、「先輩後輩関係なく指示を出すべき人が指示を出し、間違えていたら躊躇せず訂正することや、指示を受けた人は指示内容を行う際、声に出してから行う」という権威勾配からの脱却した相互尊重やクローズド・ループ・コミュニケーションという多職種連携の本質を修得していた。今後は、地域の医療系学生を対象を拡大し、地域基盤型の医療人材育成をさらに展開することで多職種連携を通じた地域救急医療の質向上に貢献していくことを目標とする。</p>

## 10. 教育セッションシンポジウム「文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業『多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ』における救急医学教育と東北への展開」の開催

令和5年6月24日（土）、第37回東北救急医学会総会・学術集会（オンライン）において、教育セッションシンポジウム「文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業『多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ』における救急医学教育と東北への展開」を開催した。

本事業の拠点である本学と連携校である秋田大学の特色ある卒前救急医学教育の紹介発表、次いで両校の医学生からの報告、また、東北での救急医療教育をリードしている東北大学病院谷河篤先生、福島県立医科大学（総合南東北病院）橋本克彦先生から、特色のある先駆的な救急医学教育について発表いただいた。東北地方の72名の救急医療関係者、研修医、医学生に参加いただき、積極的な議論が展開された。

日 程 表

	RoomA		RoomB		RoomC
9:00	9:00~9:05 開会の挨拶	9:00	9:00~10:30 教育セッションシンポジウム 文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」における救急医学教育と東北への展開 座長 奥山 学 座長 野村 理	9:00	9:00~9:55 一般演題② 感染症・急性中毒 座長 角田 拓也 コメンテーター 坂本 和太 コメンテーター 森 俊三
9:30	9:05~10:00 シンポジウム③ 令和6年度開始の働き方改革にどう対応するか 座長 五十嵐 季子 座長 赤坂 威一郎 休憩5分	9:30		9:30	
10:00	10:05~11:10 研修医・学生セッション 座長 入江 仁 審査員 各県から1名	10:00	休憩5分	10:00	10:00~10:45 一般演題⑤ 救急医療体制1 座長 木村 正樹 コメンテーター 金子 忠弘 コメンテーター 鈴木 剛
10:30		10:30		10:30	休憩5分
11:00	11:10~11:30 審議	11:00		11:00	
11:30	11:30~11:50 総会・表彰	11:30	10:35~11:35 災害シンポジウム 座長 伊藤 勝博	11:30	10:50~11:45 一般演題④ 救急看護 座長 成田 亜紀子 座長 三上 純子
12:00	11:50~13:00 昼休憩	12:00	11:35~13:00 昼休憩	12:00	11:45~13:00 昼休憩
12:30		12:30		12:30	
13:00	13:00~14:45 シンポジウム① 地域の救急システムを東北から発信する 座長 齋藤 兎治 座長 川井 洋輔	13:00	13:00~14:05 一般演題① CPA/CPR/AED/ 座長 横田 賢志 コメンテーター 佐藤 誠 コメンテーター 高橋 智彦	13:00	13:00~13:45 一般演題⑥ 救急医療体制2 座長 宮川 乃理子 コメンテーター 佐藤 裕太
13:30		13:30	休憩5分	13:30	休憩5分
14:00		14:00	14:10~15:05 一般演題④ COVID・災害医療 座長 大山 亜紗美 コメンテーター 眞輪 啓太 コメンテーター 高橋 健一	14:00	13:50~14:45 一般演題⑦ 各種（前向きand/or後向き研究） 座長 小林 正和 コメンテーター 庄司 孝介 コメンテーター 村塚 英智
14:30		14:30		14:30	
	休憩5分		休憩5分		休憩5分
15:00	14:50~15:20 シンポジウム② 5類変更後のコロナ診療の世界我々はどのように対応している（対応する） 座長 花田 裕之	15:00	15:10~16:05 一般演題③ 内科救急 座長 中畑 潤一 コメンテーター 中山 弘文 コメンテーター 横沢 路子	15:00	14:50~15:45 一般演題⑧ 外傷・熱傷 座長 吉村 有矢 コメンテーター 富田 大祐 コメンテーター 宮坂 矩博
15:30	15:25~16:20 シンポジウム④ 定・特定・専門・診療看護師の救急診療における役割、実際 座長 山崎 千鶴 座長 佐々木 信子	15:30		15:30	休憩5分
16:00	休憩5分	16:00		16:00	15:50~16:45 一般演題⑨ 各種教育・研修1 座長 井上 顕治 コメンテーター 川副 友 コメンテーター 三ノ輪 敬
16:30	16:25~17:10 一般演題⑩ 地域の救急システムを東北から発信する 座長 EMS コメンテーター 勝田 賢 コメンテーター 十倉 知久	16:30		16:30	
17:00	17:10~ 閉会の挨拶	17:00		17:00	
17:30		17:30		17:30	



教育セッションシンポジウム

Room B 9:00~10:30

文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」における救急医学教育と東北への展開

座長：奥山 学 (秋田大学大学院 救急集中治療医学講座)

野村 理 (弘前大学大学院医学研究科 医学教育学講座)

B-1 秋田大学での卒前救急医学教育

秋田大学大学院 救急集中治療医学講座 奥山 学

B-2 弘前大学における災害・被ばく医療の医学教育

弘前大学災害・被ばく医療教育センター 辻口 貴清

B-3 秋田大学における救急医療教育の現状と課題

秋田大学医学部医学科6年 間々田花野

B-4 Hirosaki University ICLS Course for Medical Traineesを受講して

弘前大学医学部医学科5年 山本 彩

B-5 デジタルデバイスを用いたacute care surgeonの育成

東北大学病院 高度救命救急センター 谷河 篤

B-6 地方急性期医療のリーダーとなる救急/麻酔両方の専門性を持つクリティカルケア育成を目指して

福島県立医科大学 救急・生体侵襲制御学講座 橋本 克彦

B-1 秋田大学での卒前救急医学教育

○奥山 学、北村俊晴、亀山孔明、平澤暢史、佐藤佳澄、奈良 佑、鈴木悠也、前野恭平  
吉田健二、中永士師明

秋田大学大学院 救急集中治療医学講座

【目的】秋田大学医学部医学科で行われている卒前救急医学教育について臨床実習クリニカルクラークシップ1 & 2 (CC 1 & CC2) に焦点を絞って報告する。

【内容】4年後期から全科必修、1週間または2週間のCC1と、5年後期から6年前期まで選択性で1クール4~5週間のCC2が7クール行われる。救急集中治療医学講座にはCC1では1週おきに6~7名の学生が1週間配属され、CC2では5名の学生が配属され計35名が経験する。CC1は短期間の為、公平性と必修項目を重視しコアカリキュラムに示されている診療技能のシミュレーションと、ピアラーニングとしてのグループディスカッション、レポート発表会を主体とし臨床は見学となっている。CC2では研修医と同等の働きを要求し、救急外来での初期対応、入院患者の診療を行い、カルテ記載とカンファレンスでのプレゼンテーションを重視した実習を行っている。診療終了後にカルテを記載し、自分の診療を振り返りながらITツールを用いて新たな知識の取得と知識の整理を行う。それをもとに翌日のカンファレンスでプレゼンテーションする。この繰り返しによって得られた知識は徐々に体系化され自分のものになり、次の診療に活かすことが出来る。このKolbの経験学修理論に基づく学修態度は、他の診療科実習でも研修医になっても継続するべきものである。また、CC2は学生がMillerのピラミッドのDOSEを経験できる唯一の場であり、4週間かけて「できる」を経験する。一方、指導者が行うべきは豊富な臨床経験の提供とフィードバックであり、知識の取得はITによって行われるべきと考える。救急科では救急医療に特徴的な疾患を中心に診療を数多く経験させることが最重要であり、一か月程度の期間と少数精鋭でなければ前述の経験学修効果は期待できないと考えている。

【結論】CC1とCC2のそれぞれの特徴にあわせアクティブラーニング主体の実習を行い、CC2では医師として求められる基本的な資質・能力を磨いていくための基本姿勢を伝えるようにしている。

## B-2 弘前大学における災害・被ばく医療の医学教育

○辻口貴清<sup>1)</sup>、野村 理<sup>2)</sup>、鬼島 宏<sup>2)</sup>、中山弘文<sup>3)</sup>、奈良岡征都<sup>3)</sup>、長谷川聖子<sup>3)</sup>、横田貴志<sup>3)</sup>、富澤登志子<sup>4)</sup>、花田裕之<sup>3)</sup>、伊藤勝博<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 弘前大学災害・被ばく医療教育センター

<sup>2)</sup> 弘前大学医学教育学講座

<sup>3)</sup> 弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター

<sup>4)</sup> 弘前大学大学院保健学研究科看護学領域

**【背景・目的】** 2011年3月に発生した福島第一原子力発電所事故を契機に、医学教育における放射線健康リスク科学教育の必要性が議論されてきた。2022年度に公表された医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）では、医師養成に係る卒前教育において「内部被ばくと外部被ばく」、「放射線事故」等の学習項目が設定されている。また、2020年4月に内閣府が公表した日本海溝・千島海溝沿い巨大地震モデルを反映した被災想定によると、青森県では最大5万人以上の死者が発生すると予想されており、青森県内の強固な災害医療体制構築および教育が喫緊の課題となっている。そこで我々は、医学科学生の卒前教育における災害医療・被ばく医療教育の充実を目指した教育を導入する。

**【方法】** 医学科2年次に放射線の基礎や影響・過去の放射線災害事例の講義、4年次に被ばく・汚染傷病者に対する医療の講義、5年次のクリニカルクラークシップで、VR技術を駆使した放射線線量評価実習や汚染傷病者の診療実習を行っている。これら被ばく医療に関する教育に加え、2023年4月より1年次の教養教育科目に「災害原理・防災」、「災害対応・情報」、「原子力災害」を新たに開設し、医学科学生に対して履修を推奨とした。

**【結語】** 弘前大学では学内外の多岐に渡る専門家の協力のもと、医学科学生に対して特色ある災害医療・被ばく医療の教育を導入した。

## B-3 秋田大学における救急医療教育の現状と課題

○間々田花野

秋田大学医学部医学科6年

**【背景と目的】**

秋田大学医学部医学科の教育プログラムは医学教育のグローバル化への対応を目指し、従来のプログラムよりも診療参加の機会が多く設けられている。令和2年度からCOVID-19流行による学習の制限があった状況下で、平成30年度入学（現6年生）の私が経験した救急医療教育の現状と課題を検討した。

**【現状と課題】**

秋田大学医学部医学科で全学生が経験する救急医療教育は、4年次前期に実施される全10回の講義と4年次後期から5年次前期の間の1週間で経験するClinical Clerkship (CC1)のみである。講義は全て座学で実施され、COVID-19流行渦ではオンラインで授業が行われた。CC1では学生がランダムにERでの実習とICUでの実習に割り当てられ、いずれか一方のみを経験する。また、全員を対象としてシミュレーショントレーニングが実施される。6割以上の学生は講義とCC1のみを経験して卒業を迎えており、学校で勉強・経験する機会が不足していると感じる。一方で、これらに加えて希望者は4年次前期に3日間のアドバンスドコースと5年次後期から6年次前期の間に1ヶ月間のClinical Clerkship (CC2)を受講することができる。アドバンスドコースはシミュレーショントレーニングを経験でき、CC2ではERとICUの両方で、実際に患者さんを診察する機会が多く設けられている。これらの参加機会に恵まれた学生は、救急医療を実践的に学ぶ機会をより多く得る。

**【結論】**

秋田大学では学生によって救急医療の学習機会に大きく差がある。多くの学生は学習期間が非常に短い、限られた時間の中でシミュレーションを使った実践的なトレーニングや実際に患者さんを問診・診察する機会が設けられている。また、希望した学生にはさらなる学習の機会が与えられ、より実践的に多くの症例を経験することができる。

## B- 4 Hirosaki University ICLS Course for Medical Trainees を受講して

○山本 彩、池田潤基、新内佳那、西野博喜、増山 望、森島彩華

弘前大学医学部医学科5年

弘前大学医学部医学科の学生を対象にした Hirosaki University ICLS Course for Medical Trainees は、2023年1月7日に弘前大学にて行われた。参加した学生チームは、救急医療に興味のある4年生3人と5年生3人で構成された。講師は医師2名、看護師1名であった。

まず本コースを受講するにあたり、学生チームとして準備したことは、ICLS コースガイドブックによる自学自習、救急医学に関する授業の復習、そして5年生がクリニカルクラークシップで救急科をローテートした際に学んだ内容を、4年生に共有し理解を深めた。他にも、コース修了時に授与される受講修了証のフォーマットを学生自身で作成した。

コース当日は、まず講師がテキストの重要な箇所を解説する形でスタートした。受講生への質問も織り交ぜながら行われたため、受け身のコースではなくインタラクティブで学生自身が考えながら行うコース内容であった。その後の様々なシナリオに基づく、それぞれの役割（リーダー、タイムキーパー、胸骨圧迫、呼吸管理、除細動器、薬剤投与）を経験して、チーム医療の大切さを実感できた。例えば、先輩後輩関係なく指示を出すべき人が指示を出し、間違えていたら躊躇せず訂正することや、指示を受けた人は指示内容を行う際、声に出してから行う（例、「アドレナリン1mg 静注します」）、などである。4年生にとっては実習前、5年生にとっては、実習半ばでICLSコースを受講できたことで、精神面・知識面ともに今後の実習に大いに生かせる良い経験となった。本コースを受講して、今後は静脈路の確保など、より実践に即した手技の習得ができ、さらに1つ1つの手技も一連の流れの中で習得できるようになれば受講生としては理想的である。

最後に医学部における救急医学教育全体への要望をあげるとすれば、1～4年生の低学年のうちから救急医療に関わる機会があると、救急医療への興味と知識を早期から培えるため、医学生と教員の双方にとって良いのではないかと考えた。

## B- 5 デジタルデバイスを用いた acute care surgeon の育成

○谷河 篤、久志本成樹

東北大学病院 高度救命救急センター

Acute care surgery を実践するためには、救急・外傷外科と集中治療を中心とした横断的領域の technical skill と non-technical skill が必要である。

変化する病態に対する限られた時間における判断と診療の組み立ては、acute care surgeon に求められる中心的な能力である。多職種診療チームにおいて、意思決定とチーム医療の遂行能力向上のために、発表者らは複数のデバイスによる診療録画記録を利用している。360度撮像するVRカメラによる動画を用い、自己学習や多職種による症例検討を行い、診療能力やチーム力の向上を図っている。VRカメラによる記録は、診療チームとしての動きをレビューすることができ、多職種チームをリードする acute care surgeon の non-technical skill 向上に有用である可能性がある。

また、従来の定点カメラによる術野を中心とした録画だけでなく、術者目線で記録するウェアラブルカメラや術者らを客観的に記録するVRカメラによる動画で多角的に手術を学習することは surgeon としての technical skill 向上に寄与する。

Acute care surgery は多職種で診療を円滑に遂行するための non-technical skill や横断的領域の technical skill が求められる。これらの skill 向上にはデジタルデバイスが有用である可能性がある。デジタルデバイスを駆使し、未来の acute care surgeon や acute care surgery チームの育成を目指していく。



## B-6

## 地方急性期医療のリーダーとなる救急 / 麻酔両方の専門性を持つクリティカルケア医育成を目指して

○橋本克彦<sup>1)</sup>、倉品 智<sup>2)</sup>、江口翔吾<sup>2)</sup>、土川幹史<sup>2)</sup>、佐々木 徹<sup>1)</sup>、比留間孝広<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 福島県立医科大学 救急・生体侵襲制御学講座

<sup>2)</sup> 総合南東北病院救急集中治療科

**【はじめに】**

資源調整、患者蘇生、手術介入時の全身麻酔、術後のシームレスな全身管理をすべて一元的に行える救急 / 麻酔医の育成は、地方の急性期医療の鍵となりうる。急性期医療は集学的なアプローチを必要とする典型的部署であり、複雑な問題に迅速に対応できるリーダー医師は、診断学や多数傷病者対応に長けた救急医としての側面、重症患者蘇生のスペシャリストである麻酔科医としての側面どちらも備えるべきである。

**【卒後教育】**

総合南東北病院の救急集中治療科指導医3名は救急 / 麻酔専門医として、病院前診療、救急外来対応、手術室麻酔、集中治療室での重症患者対応を行い、ロールモデルとなるべく業務に当たっている。当院は初期研修医の急性期医療の経験を重視し、救急科ブロック研修3ヶ月に加えて、麻酔科1ヶ月の研修を必修としている。これにより急性期医療の経験、技術の修得、重症患者の初療から退院までのシームレスな管理を経験することができる。

新専門医研修の課題として、救急と麻酔の基本領域を並行研修できないことが挙げられる。当院は救急科専門研修基幹施設として、麻酔科の協力を得て手術室麻酔（1日 / 週：希望者は3ヶ月間の麻酔専従も可）の並行研修を提供しており、全身管理や緊急対応の経験を積めるよう配慮している。集中治療認定施設としてバランスの取れた集中治療医を育成することも責務の1つであり、救急医としての診断 / 内科的管理・災害対応 / ベッドコントロールなどの資源管理と、麻酔医としての全身状態を安定化する蘇生技術とが高い次元で融合することで、集中治療医としても良質な患者管理が可能になると考えている。

**【まとめ】**

相補的な役割を担う救急と麻酔両方の専門性を持つことは、医師不足に悩む地域の急性期医療リーダーとして貴重な「人財」となり得る。当院では、救急 / 麻酔を共に研修したバランスの優れたクリティカルケア専門医の育成を引き続き目指していく。

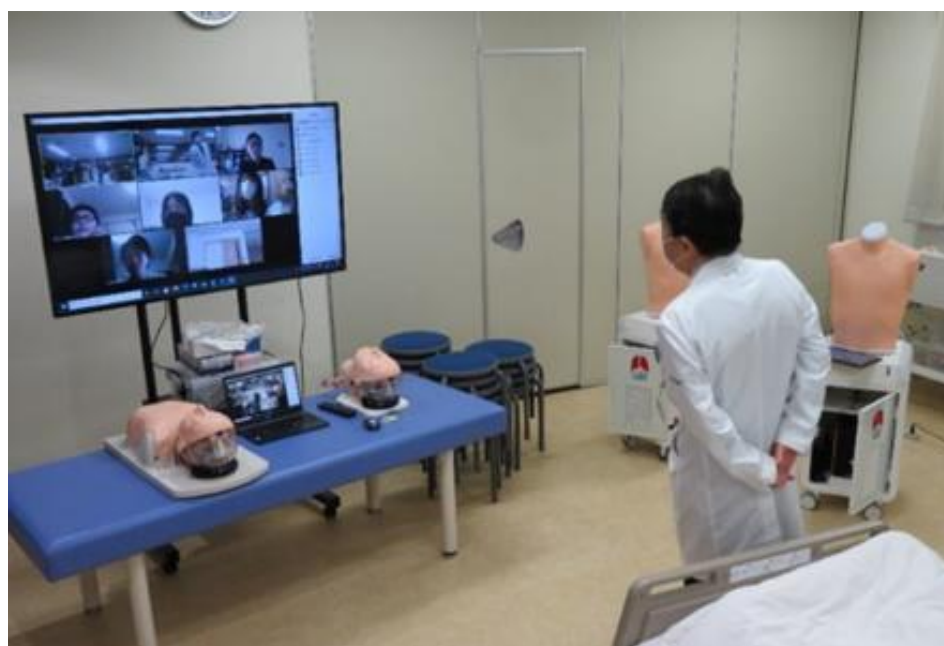
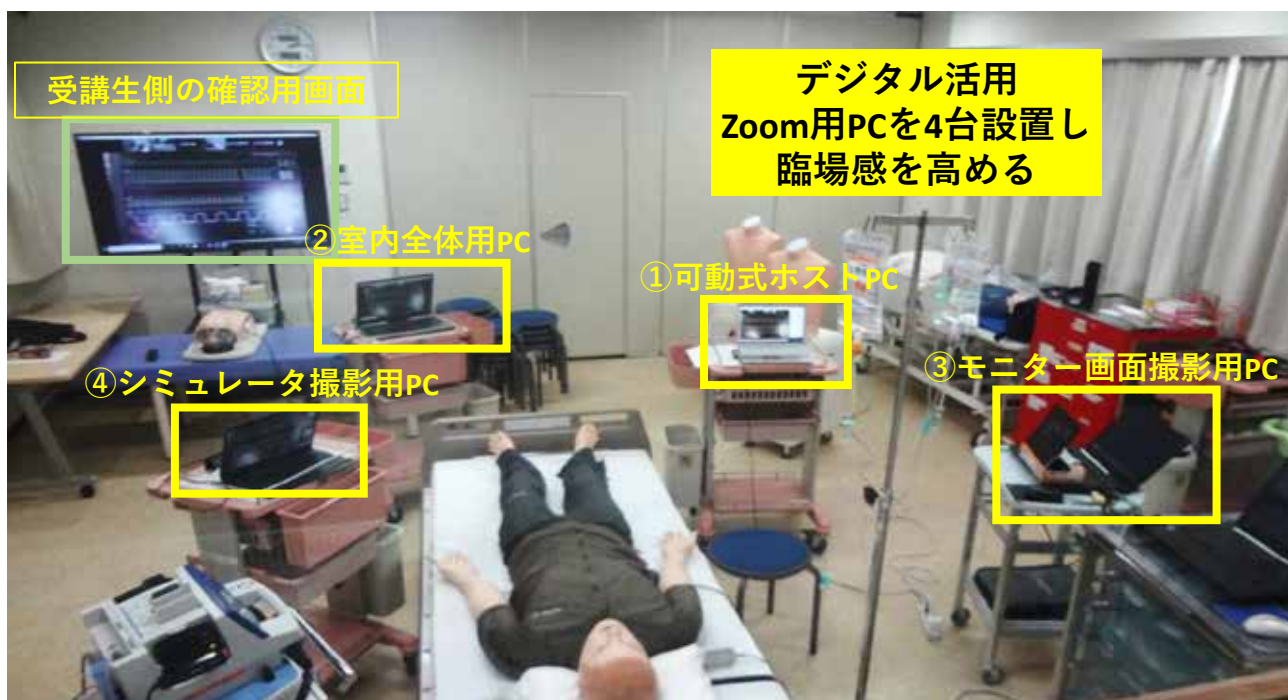
### 【3】秋田大学における取り組み

#### 1. 多職種連携に関する講義

令和6年1月に2年次学生126名を対象とした多職種連携に関する講義を実施した。

#### 2. 遠隔シミュレーション教育

令和5年6月から7月の期間中に計4回、秋田大学長谷川教授が弘前大学の臨床実習生6名に対し、遠隔で胸痛、呼吸苦に関するシミュレーション実習を行った。



遠隔シミュレーション教育の様子

### 3. 教育コンテンツの作成と共有

下記の動画コンテンツを作成した。撮影機器として通常のビデオカメラ以外にも、360度カメラなどを使用して、臨場感のある動画教材を作成した。

動画コンテンツは秋田大学が使用するラーニングマネジメントシステム（LMS）であるWebClass上で学生が視聴できるよう準備を進めている。

また、弘前大学と秋田大学での動画教材の共有も積極的に進めており、多職種連携・総合診療・医療英語・小児救急に関連する動画コンテンツ計13本を共有した。

	教材名	分類	作成本数
1	コミュニティナースの働き方	総合診療・多職種連携	1
2	みんならぼカード(ゲームを通じてACPを学ぶ)	総合診療・多職種連携	1
3	多職種インタビュー (作業療法士、管理栄養士、社会福祉主事任用資格)	総合診療・多職種連携	3
4	地域で働く医師の一日	総合診療・多職種連携	1
5	自分で拓くキャリアパス 行政や住民と共に地域の未来を創る医師	総合診療・多職種連携	1
6	Writing email in English for health professions students	医療英語	4
7	臨床推論の必修実践ポイント1～実習班ごとのチーム 討論の進め方（TBL）	臨床推論・症候学	4
8	臨床推論の必修実践ポイント2～実習班ごとのチーム 討論の進め方（TBL）	臨床推論・症候学	4
9	腹痛	臨床推論・症候学	4
10	頭痛	臨床推論・症候学	4
11	咳嗽	臨床推論・症候学	4
12	血尿・蛋白尿	臨床推論・症候学	2
13	口渇・嘔気ほか	臨床推論・症候学	4
14	発熱・不明熱1 ～抗生剤～	臨床推論・症候学	4
15	しびれ	臨床推論・症候学	2
16	動悸・失神	臨床推論・症候学	4
17	関節痛・関節腫脹	臨床推論・症候学	2
18	出血傾向	臨床推論・症候学	1
19	内分泌疾患臨床推論・ピットフォール	臨床推論・症候学	4

動画コンテンツ一覧



動画教材の一部





WebClassにアップロードされた動画教材の一部

WebClass上で管理している教材の一部を、県内臨床実習施設（計26施設）と共有するために、プラットフォームの整備や、アカウント付与の手続き、教材のレビューといった準備作業を進めた。また10月4日（水）に行われた秋田大学医学部・教育関連病院指導者FDでは、この点について、学外の指導医と情報共有をした。

県内臨床実習施設の指導医に対し、デジタル教育コンテンツを公開することで実習前教育の情報共有を行い、音声や動画などのデジタルデータを活用したCBTなどを含むeラーニングシステムの利用方法について、今後の展開等に関するFDを行い、より一層の教育連携を図る予定である。

**目標：卒業生全員の総合的な診療能力を向上**  
 ⇒**地域医療を維持し感染症対応できる**  
**『総合診療専門医』・『総合力ある各科専門医』**



**学内・学外指導者**  
**デジタルコンテンツを共有**  
 ⇒教育効果を  
 継続的に向上！  
 ⇒目標に向かって  
 6年間一貫水平・垂直  
 統合教育推進！

デジタルコンテンツの県内共有



デジタルデータを活用した試験の様子

#### 4. 症候ベースの統合カンファレンス —TBL（臨床実習チーム基盤型学習）—

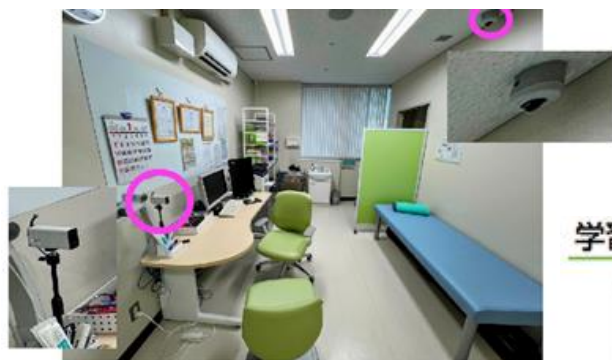
毎週金曜日の午後に臨床実習生に対して、主要症候ベースのTeam-based learning（TBL）を行い、カンファレンススタイルで臨床推論を学ぶ機会を設けている。この様子はオンデマンド視聴で復習ができるように録画をし、動画教材としてWebClassに掲載する準備を整えている。



TBLの様子

## 5. ビデオ振り返りシステムを用いた外来実習

秋田大学総合診療部および救急外来診察室に、天井と診察テーブルに設置したカメラで診察の様子が録画できるシステムを導入した。これにより、学生や研修医などが外来診察の訓練をする際に、実際の自身の外来風景を録画したものを指導医と振り返り、より充実した教育や研修が行える設備が整えられた。本システムはモニターを通して別室で確認することが可能であり、グループ学習であっても、観察を通じた学びの共有が可能である。本システムは患者さんの同意が得られたときのみ、教育目的で使用している。



学習者と指導医で振り返り



## 4. 外部評価

---

External Evaluation





## 【1】外部評価

令和6年2月16日（金）、本学医学研究科内（一部オンライン出席）において事業評価専門部会を開催し、外部評価を実施した。

日 時 令和6年2月16日（金）14：58～15：59  
場 所 弘前大学大学院医学研究科大会議室  
対象年度 令和4年度、令和5年度

### 《外部委員》

青森中央学院大学長 佐藤 敬  
秋田県健康福祉部長 高橋 一也



オンライン出席の高橋秋田県健康福祉部長（右）と永田青森県健康福祉部長（左）



青森中央学院大学 佐藤学長



外部評価の様子

「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業  
外部評価結果報告書

日時 令和6年2月16日（金）14時58分～15時59分

場所 弘前大学大学院医学研究科大会議室

対象年度 令和4年度、令和5年度

《外部委員》

青森中央学院大学長 佐藤 敬

秋田県健康福祉部長 高橋 一也

《事業評価専門部会委員》

弘前大学大学院医学研究科長（地域基盤型医療人材育成センター長） 廣田 和美

弘前大学大学院保健学研究科長 齋藤 陽子

弘前大学医学部附属病院長 袴田 健一

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター

医学教育学講座教授（地域基盤型医療人材育成センター副センター長） 鬼島 宏

弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座教授 富田 泰史

秋田大学大学院医学系研究科長 羽瀧 友則

青森県健康福祉部長 永田 翔

《外部評価方法》

本事業について、事業評価専門部会委員による自己評価実施後、外部委員による外部評価を実施する。

【外部委員による外部評価結果】

令和4年度

評価項目	委員1	委員2
実施体制	3	3
教育改革等	3	3
全体評価	3	3

令和5年度

評価項目	委員1	委員2
実施体制	3	3
教育改革等	3	3
全体評価	3	3

（評語）

4：計画を上回って実施している／3：計画を十分に実施している

2：計画を十分には実施していない／1：計画を実施していない

## 【外部委員からの総評】

## 《令和4年度》

## 【委員1】

本事業の実施体制として、拠点校である弘前大学における地域基盤型医療人材育成センターの設置及び専任教職員の配置に加えて、秋田大学をはじめとする連携校との連携体制が整備され、連携事業に着手している。

教育改革に関しては、弘前大学、秋田大学の連携により、新たな教育プログラム策定のための取組を開始し、次年度のeラーニングシステム導入を決定している。

全体として、特に事業実施体制整備は予定を上回る成果と評価できるが、今後の成果に期待する意味で、“3：計画を十分に実施している”とした。

## 【委員2】

弘前大学に地域基盤型医療人材育成センターを設置し、当初の予定より前倒して運営会議を開催するなど、早期に実施体制を確立している。

また、連携校である秋田大学の視察や、連携校、協力校と合同で開催するシンポジウム等により連携体制を強固なものとしている。

教育改革については、連携校との間でそれぞれの特色ある教育について共有したほか、次年度に向けて、新設教育プログラムの策定と遠隔カンファレンスシステムの導入に着手している。

全体として、計画を十分に実施していると評価できる。

## 《令和5年度》

## 【委員1】

実施体制を十分機能させることにより、連携4校運営会議やシンポジウムを開催し、また、秋田大学においてはデジタル医学・医療教育推進センターを設置し、特任教授を配置するなど、体制強化が図られた。また、外部委員による外部評価を実施している。

教育改革についても、事業計画が本格的に実施され、さまざまな取組の中で、地域災害対応マネージャー（防災士）育成コースの成果や、多職種連携演習・実習コースの開講及び多職種連携事例検討ワークショップの開催は特筆される。

令和5年度も大きな成果を挙げているといえるが、アウトプット、アウトカムの着実な達成につなげる成果を目指して、さらなる取組の充実を期待する。

## 【委員2】

連携4校による運営会議とシンポジウムの開催や、秋田大学にデジタル医学・医療教育推進センターが設置されたことなどにより、事業推進体制が強化されている。

教育改革の面では、新たな教育プログラムとして、地域災害対応マネージャー（防災士）育成コースや医療系多職種連携演習・実習コースを開講し、地域の特性を反映させた教育や、入学直後から多職種連携を体験させる学科の枠を越えた教育を行うなど、特徴的な取組を進めている。

事業が本格的に動き始めた令和5年度の成果は大きく、計画を十分に実施していると評価できる。

【外部委員からの意見等】

《令和4年度》

【委員1】

令和4年度の事業は短期間の取組ながら、着実な成果を挙げており、令和5年度の事業実施に円滑につなげることができたと評価できる。特に弘前大学と秋田大学の特色ある取組を共有することを通して、青森県・秋田県両地域の地域医療の充実に資することが期待される。

【委員2】

弘前大学と秋田大学が特色ある教育を共有し、連携しながら互いに高め合う取組を進めることにより、両県の地域医療の充実が期待できる。

《令和5年度》

【委員1】

令和5年度は、しっかりとした事業実施体制が十分機能して、十分な成果を挙げていると評価できる。これを今後も確実に継続するとともに、さらなる充実を図ることで、地域医療人材の育成に向けた基幹事業となることが期待できる。

【委員2】

近年、大きな災害が多発している現状に鑑み、防災士を育成する教育は、行政の視点からも非常に心強い取組である。

また、タスクシフトやチーム医療を進める必要性が高まっている中、多職種連携教育に注力する意味は大きい。

北東北の地域医療を支える人材の育成は、この地域の医療提供体制の充実に直結するため、事業の成果に大いに期待している。



## 5. 參考資料

---

Reference



## 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター規程

令和4年9月21日

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人弘前大学管理運営規則（平成16年規則第1号）第5条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター（以下「センター」という。）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、医師の地域偏在及び診療科偏在、地域構造の変化などの課題に対応するため、連携校及び協力校並びに協力機関と連携し、地域にとって必要な医療を提供することができる医療人材の育成に係る教育プログラムの開発・実施を行う教育拠点を構築することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 総合的な視点（住民のライフサイクル、地域及び多職種連携等）を涵養する医療人材育成に関すること。
- (2) 急性期・慢性期患者の複合的問題及びパンデミックや災害に対応できる医療人の育成に関すること。
- (3) 地域基盤型医療者教育を実践するための効果的な教材及び教育プログラム開発に関すること。
- (4) その他センターの目的の達成に必要な業務に関すること。

(他大学等との連携等)

第4条 センターの目的を達成するため、次の各号に掲げる連携校及び協力校並びに協力機関と協同で業務を実施する。

- (1) 連携校 国立大学法人秋田大学
- (2) 協力校 学校法人弘前学院弘前学院大学、学校法人弘前城東学園弘前医療福祉大学
- (3) 協力機関 青森県

(職員)

第5条 センターに、次の各号に掲げる者を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他センター長が必要と認めた者

(センター長)

第6条 センター長は、研究科長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

(副センター長)

第7条 副センター長は、センター長が指名する者をもって充てる。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該副センター長を指名したセンター長の任期の末日以前とする。

3 副センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任

者の残任期間とする。

- 4 副センター長は、センター長の業務を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代理する。

(兼任教員)

第8条 兼任教員は、センター長が指名する者をもって充てる。

- 2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、当該兼任教員を指名したセンター長の任期の末日以前とする。

(運営会議)

第9条 センターの管理運営を円滑に行うため、センターに運営会議を置く。

- 2 運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和4年10月1日から施行する。

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター  
運営会議内規

令和4年9月21日

(趣旨)

第1条 この内規は、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター規程第9条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議（以下「運営会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営会議は、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター（以下「センター」という。）に関する次の事項を審議する。

- (1) センターの運営方針に関すること。
- (2) 教育プログラムの管理・運営等に関すること。
- (3) その他センターに関する重要事項に関すること。

(組織)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事（教育担当）
  - (2) 医学研究科長（センター長）
  - (3) 保健学研究科長
  - (4) 医学部附属病院長
  - (5) 医学教育学講座教授
  - (6) 連携校から推薦された者
  - (7) 協力校から推薦された者
  - (8) 協力機関から推薦された者
  - (9) その他センター長が必要と認めた者
- 2 前項第9号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 前項の委員の任期の末日は、当該委員を指名するセンター長の任期の末日以前とする。
- (議長及び副議長)

第4条 運営会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 運営会議に副議長を置き、議長が指名する委員をもって充てる。
- 3 副議長は、議長の職務を補佐し、議長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 運営会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第6条 議長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(専門部会等)

第7条 運営会議に、必要に応じて専門部会等を置くことができる。

- 2 専門部会等に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)



第8条 運営会議の庶務は、医学研究科事務部において処理する。

(その他)

第9条 この内規に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和4年10月1日から施行する。

## 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議 委員名簿

(令和5年10月1日現在)

附属地域基盤型医療人材育成センター 運営会議内規第3条	氏名	職名等
(1) 理事(教育担当)	郡 千寿子	
(2) 医学研究科長	廣田 和美	(センター長)
(3) 保健学研究科長	齋藤 陽子	
(4) 医学部附属病院長	袴田 健一	
(5) 医学教育学講座教授	鬼島 宏	(副センター長)
(6) 連携校から推薦された者	羽瀨 友則	秋田大学大学院医学系研究科長
	南谷 佳弘	秋田大学医学部附属病院長
(7) 協力校から推薦された者	藁科 勝之	弘前学院大学長
	下田 肇	弘前医療福祉大学長
(8) 連携機関から推薦された者	永田 翔	青森県健康福祉部長
(9) その他センター長が必要と認めた者	野村 理	医学教育学講座 助教

弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議の  
専門部会設置に関する申合せ

令和4年9月21日

(設置)

- 1 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議内規第7条第2項の規定に基づき、弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議（以下「運営会議」という。）に教育カリキュラム専門部会及び事業評価専門部会を置く。

(任務)

- 2 専門部会は、次に掲げる事項を検討する。
  - (1) 教育カリキュラム専門部会にあつては、教育カリキュラムの開発、編成及び広報等に関する事項
  - (2) 事業評価専門部会にあつては、事業評価に関する事項

(組織)

- 3 各専門部会は、検討課題に応じ、センター長が指名する者をもって組織する。

(部会長)
- 4 各専門部会に部会長を置く。
- 5 各部会長は、センター長が指名する者をもって充てる。
- 6 各部会長は、各専門部会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)
- 7 各専門部会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報告)
- 8 各専門部会は、必要に応じて協議経過及び結果について、運営会議に報告するものとする。

(その他)
- 9 各専門部会の庶務は、医学研究科事務部が処理する。

附 則

この申合せは、令和4年10月1日から実施する。

## 教育カリキュラム専門部会 委員名簿

(令和5年10月1日現在)

職名等	氏名	備考
弘前大学大学院医学研究科長	廣田和美	地域基盤型医療人材育成センター長
弘前大学大学院保健学研究科長	齋藤陽子	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座教授	鬼島宏	地域基盤型医療人材育成センター 副センター長
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座教授	富田泰史	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座助教	野村理	
秋田大学大学院医学系研究科長	羽瀨友則	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 医学教育学講座教授	長谷川仁志	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 総合診療・検査診断学講座教授	植木重治	
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 先進デジタル医学医療教育学講座 特任教授	及川沙耶佳	
弘前医療福祉大学副学長	土澤健一	

## 事業評価専門部会 委員名簿

(令和5年10月1日現在)

職名等	氏名	備考
弘前大学大学院医学研究科長	廣田和美	地域基盤型医療人材育成センター長
弘前大学大学院保健学研究科長	齋藤陽子	
弘前大学医学部附属病院長	袴田健一	
弘前大学大学院医学研究科附属地域 基盤型医療人材育成センター 医学教育学講座教授	鬼島宏	地域基盤型医療人材育成センター 副センター長
弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座教授	富田泰史	
秋田大学大学院医学系研究科長	羽瀧友則	
青森県健康福祉部長	永田翔	
秋田県健康福祉部長	高橋一也	※ 外部委員
青森中央学院大学長	佐藤敬	※ 外部委員



## ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に関する各種WG（弘前大学）

（令和5年4月1日現在）

## 多職種連携WG

所属・職名	氏名
医学研究科 医学教育学講座 教授	鬼島 宏
保健学研究科 教授	藤田 あけみ
保健学研究科 教授	富澤 登志子

## 遠隔診断・データサイエンスWG

所属・職名	氏名
医学研究科 放射線診断学講座 教授	掛田 伸吾
医学研究科 医療データ解析学講座 教授	玉田 嘉紀

## 救急・被ばく・感染症WG

所属・職名	氏名
被ばく医療連携推進機構 災害・被ばく医療教育センター 教授	伊藤 勝博
被ばく医療連携推進機構 災害・被ばく医療教育センター 助教	辻口 貴清
医学研究科 臨床検査医学講座 准教授 （感染制御センター長）	齋藤 紀先
医学研究科 臨床検査医学講座 講師 （感染制御センター副センター長）	糸賀 正道

■シンポジウム チラシ

令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

## 第2回 「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム

日 時：令和5年12月22日（金）15：00～17：00

場 所：アートホテル弘前シティ3階 エメラルド

（〒036-8004 弘前市大町1-1-2）

選定された本学の事業は、北東北国立大学医学部2校および青森県内医療系私立大学2校が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的としています。

### 【プログラム】

- ・ **開会挨拶** 弘前大学理事（教育担当）  
事業責任者 郡 千寿子
- ・ **特別講演** 演 題：「卒前卒後教育をつなぐLearning Societyの形成」  
講 師：佐賀大学医学部 教授 副医学部長（教育担当）  
地域医療科学教育研究センター長 小田 康友 氏
- ・ **パネルディスカッション**  
テーマ：「多職種連携と屋根瓦式教育について」  
コーディネーター：弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座教授  
鬼島 宏  
パネリスト：弘前大学大学院医学研究科医学教育学講座助教  
野村 理  
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻  
先進デジタル医学・医療教育学講座特任教授  
及川 沙耶佳  
弘前大学医学部医学科6年 秋田 優里菜  
弘前大学医学部保健学科4年 八幡 恭輔  
コメンテーター：佐賀大学医学部 教授 副医学部長（教育担当）  
地域医療科学教育研究センター長 小田 康友 氏
- ・ **閉会挨拶** 弘前大学大学院医学研究科長 廣田 和美

### ■申込方法：

参加申込受付フォーム、またはFAX（0172-39-5209）、メール（cchpe@hirosaki-u.ac.jp）にて【所属】【氏名】【連絡先電話番号／メールアドレス】を明記の上、申してください。

「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム  
参加申込受付フォーム

<https://forms.office.com/r/x6T0GJ9hjz>

■主 催：弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学

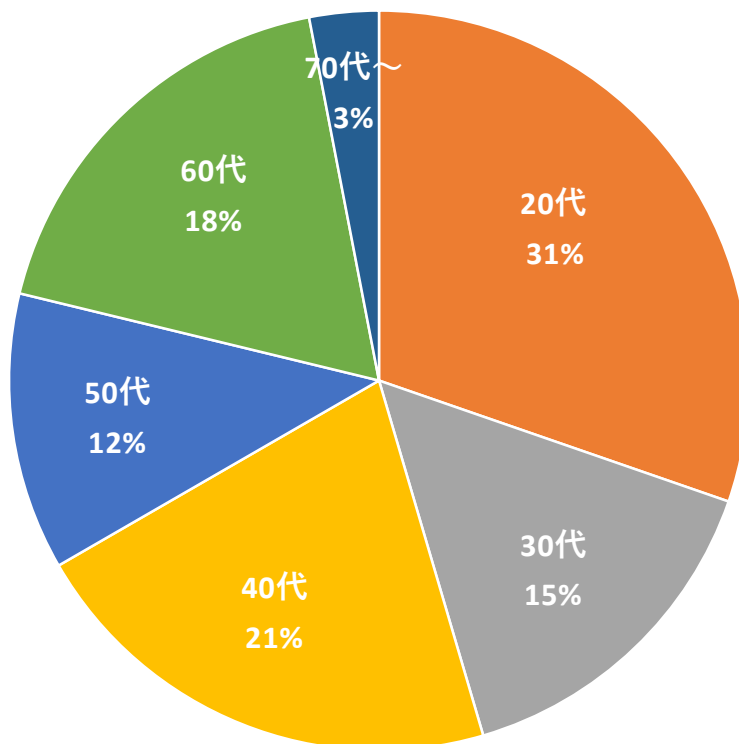
■お問い合わせ：弘前大学医学研究科学務グループ

TEL:0172-39-5202 FAX:0172-39-5209 E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp

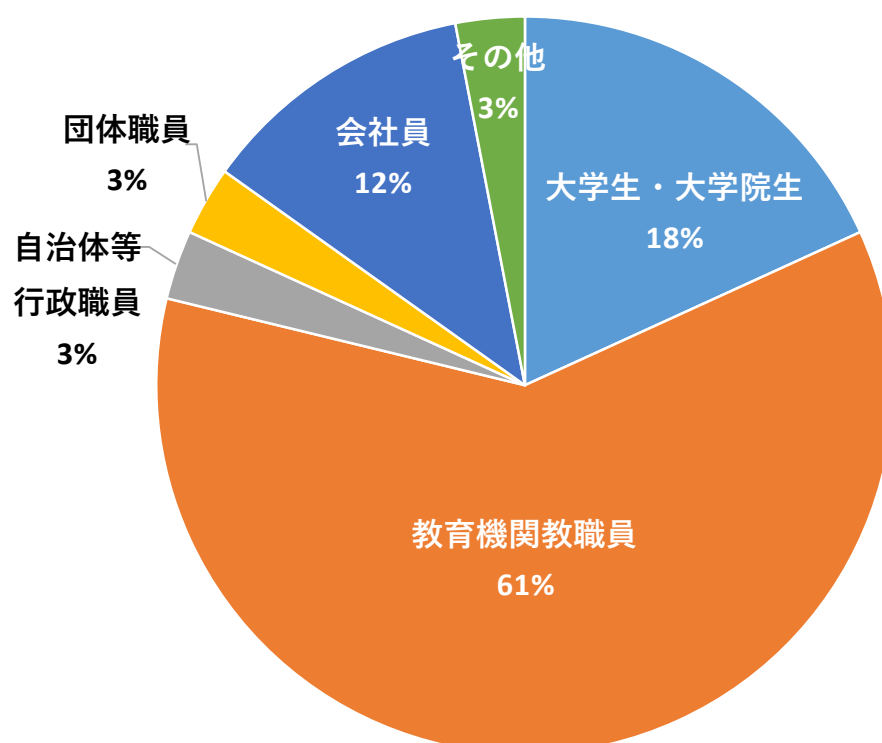


## 第2回「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業 シンポジウム アンケート結果

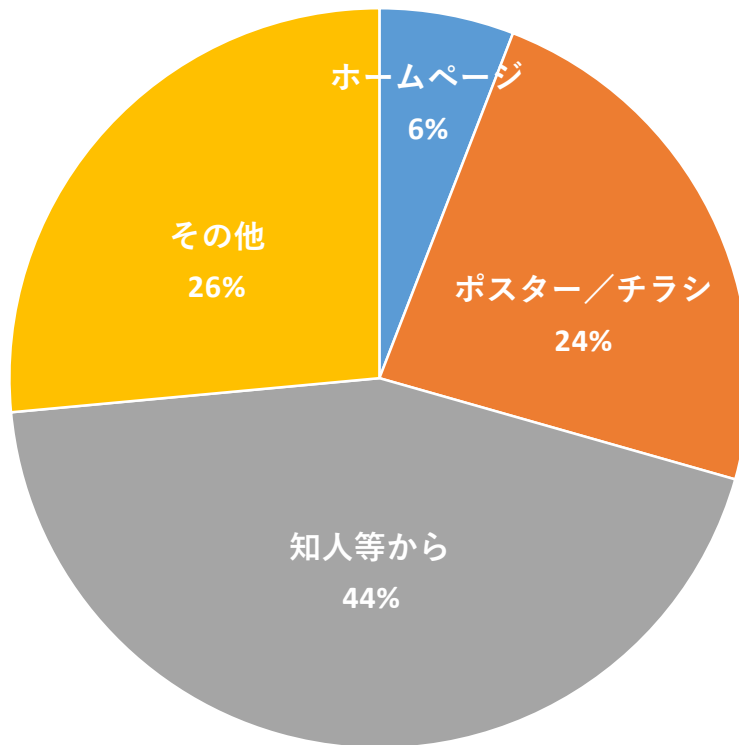
### 1. 年齢



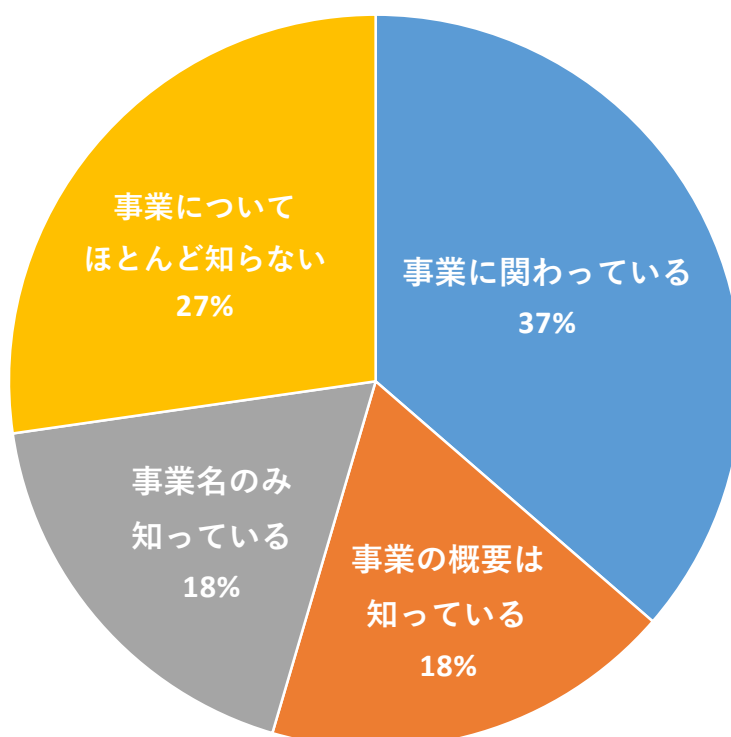
### 2. 職業等



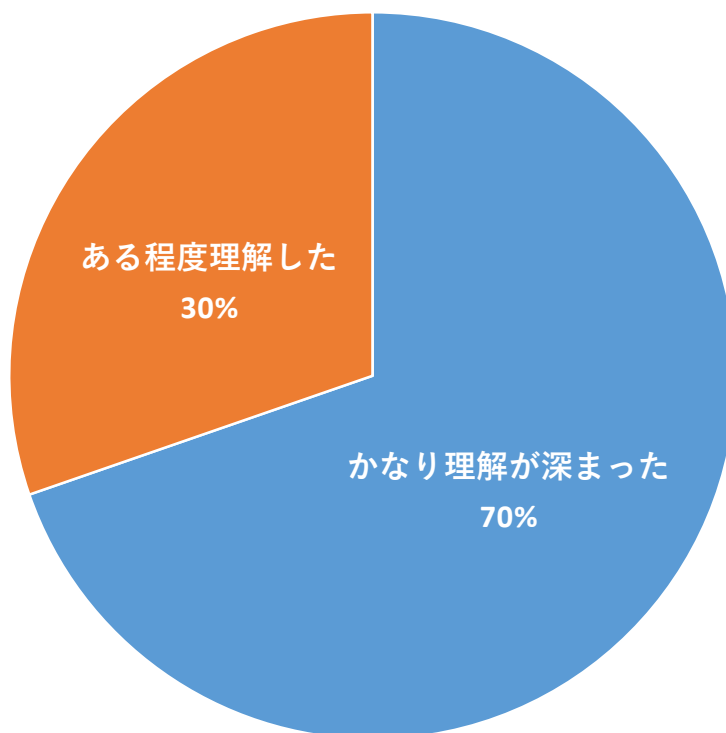
### 3. シンポジウムの開催を何で知りましたか？



### 4. 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」をご存知でしたか？



## 5. 今回のシンポジウムで、事業への理解が深まりましたか？



## 6. これからの「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業にどのようなことを期待しますか？（自由記述）

### <抜粋>

- ・ いろいろな取組事例の紹介
- ・ カリキュラムにどのような形で取り入れているのか、或いは取り入れて行くのか、その体系化を目指すのか？が重要に思えた。
- ・ 医師が率先してコミュニケーションを取っていくことの重要性を知りました。DX技術の導入で受け身の問題演習になりがちな座学が能動的なものになると思いました。
- ・ 「本事業により、どんな医療人材が生まれたのか？」という問いに、答えられるような事業であって欲しいです。



- ・ もっと現役の医学生にも事業のことを広めてほしいです。  
今まで事業のことを耳にしたことすらなかったです。  
良い事業のはずなのに大変もったいないと感じました。
- ・ 動画を用いた教育や、デジタル技術の活用について強調されていましたが、設備や財源に制限を受けそうだと感じました。そのような点も改善策を示していただくことを期待します。
- ・ 本日、初めて小田先生の講演を聞かせていただきました。  
私自身、勉強につまずいた身として勉強の概念から簡潔に図示してくださったことで、もやもやしていた部分が晴れた印象です。今は社会人になりましたが、生涯学習へ役立てられる  
と思い、今後の講演もお願いしたいと思います。  
また、患者は全国各地にいるかと思います。全国の教育機関で連携を取り、統一化すること、  
また、当事者意識につながる方向性へ進むことを期待しております。
- ・ 佐賀大学の取組について分かりやすく医学部・附属病院の働き方改革の改善の必要性を感じ  
られました。50年間の取組はすばらしいです。  
多職種連携についても大変興味深いです。
- ・ 学校、教育委員会との連携、貧困や障害を伴う児童、生徒、学生の支援のための連携とその  
有り方（医療と教育のコラボレーション）
- ・ ACP（アドバンスドケアプランニング）の地域教育
- ・ 医療者・学生の人格形成（人間形成）、倫理意識の醸成
- ・ コミュニケーション能力の育成  
上下を意識させない水平的コミュニケーションの実践、リーダーシップコミュニケーション  
と職種間階級格差を意識させるコミュニケーションとの区別と後者の否定  
非言語コミュニケーションの訓練
- ・ コンピテンシー能力の低下した学生への教育法
- ・ 学生を入れたシンポジウム良かったです。
- ・ 教材の共有を進めたいと思います。

## ■「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」新聞掲載記事

陸奥新報 2面（令和5年9月17日付）

学生のうちから、医療現場で求められる多職種連携を理解し実践につなげてもらおうと、弘前市内にある大学でつくる大学コンソーシアム学都ひろさきの「医療系多職種連携合同演習」が16日、弘前

大学で開かれた。医療系の専攻を持つ同大、弘前学院大、弘前医療福祉大の学生約60人が参加し、事例をもとにそれぞれの専門分野から意見を出し合った。

(西尾瑛)

## 弘前市内の医療系3大学 学生が合同演習



それぞれの専門を生かして意見を出し合う学生

## 多職種連携どう実践

## 患者想定 各専門分野から意見

多職種連携は、医療の高度化、超高齢化社会に伴う複雑事例の増加、地域医療との連携ニーズの高まりを

背景に、その強化が求められている。

職種をまたいだ演習として、弘大は医学部保健学科が2020年度から同大医学科を交えて行っており、22年度からは、弘大が採択された文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の一環として年に1度、3大学合同で開いている。

演習は、患者たちがその人らしく、安心して地域で暮らしていくために何が必要かについて、医療職の役割や専門職種間の連携を考えてもらうことが狙い。

この日は「多系統萎縮症」の診断を受けた患者を想定し、今後の生活の課題と対策について8グループに分かれて検討。学生たちは、今の状態や生活の状況、病気の進行の可能性、進行し

た際に必要となる治療や介護、在宅のケースでのリスクや家族の負担などさまざまなポイントを押さえながら、「病気の進行で寝たきりとなるリスクがある」「今のところは在宅で通院した方がいいかもしれない」「在宅医療になった時の家族の負担、転倒のリスクもある」「患者さん本人がどうしたいか、確認する機会が必要」などとそれぞれの専門知識を生かしながら課題を洗い出し、多職種連携の大切さに触れる機会とした。

陸奥新報社提供



陸奥新報 1面 (令和5年9月23日付)

# 弘大が今年度から新たな「教育プログラム」

# 医学生 防災士取得へ



普通救命講習を受ける学生

東日本大震災以降、福島県の災害復興活動に取り組み弘大は、知見を次世代に引き継ぐことを目指し昨年度、「災害・被ばく医療教育センター」を設置し、本プログラムはその一環。また県などがまとめている太平洋側海溝型地震の本県被害想定で冬季では最大5万人以上の死者が予想され、津波などから逃れた後も低体温症などのリスクが想定されることから、本プログラムでは避難所運営でのリーダーシップが期待される防災士資格の内容や避難生活の長期化で起こり得る疾患などについても幅広く学ぶ。

22日は弘前地区消防事務組合の協力を受け、学生と

## 複合災害対応学ぶ

### 160人受講 大規模な救命講習も

弘前大学は今年度から、医学生らが防災士の資格取得を目指す「防災教育プログラム」をスタートした。大学として医学生の防災士取得を目指す取り組みは全国でもまれといい、近年多発する自然災害や感染症災害、原子力災害など複合災害に対応する人材育成を目指す。教養科目の防災、災害医療、被ばく医療に関する3科目のうち、2科目を修了すると防災士受験資格が得られ、三つすべてを修了すると、独自の「弘前大学災害対応マネージャー」の資格を得ることができる仕組み。今年度は医学部医学科1年生全員を含む約160人が受講し、年度末に希望者が防災士試験に挑む。(西尾英)

教職員計約100人が参加した大規模な普通救命講習を開催。心肺蘇生で必要不可欠な胸骨圧迫(心臓マッサージ)や自動体外式除細動器(AED)の対応、窒息時の対応などのレクチャーを受けた。

(19)は「胸骨圧迫を学んだのは初めて。思っていた以上にハードで、なかなか圧迫が必要な深さにならなかつた。今回、災害時の救命がどういったものか感じられ良かった」と振り返った。教育学部1年佐原泉さん(19)は「静岡の出身で常に南海トラフ地震の懸念がある。教員志望なので、小中学校が避難所になることも多いため、今回の知識が役立てられればと考えている」と話し、農学生命科学部1年の杉本楓真さん(20)も「災害時などに、自分ができることを知っておいた方がいいと考えて受講した。防災士取得を目指したい」と語った。

弘前大被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センターの辻口貴清助教は「大規模災害が起きる可能性を踏まえ、医学部生には特に知っておいてもらいたい内容であり、社会に出た後も一般企業でも取り組まれている災害時などの事業継続計画(BCP)作成などでも経験を生かすことにつながる」と話した。

陸奥新報社提供



東奥日報 21面（令和5年9月29日付）

# 災害時に人命救え

## 防災科目新設の弘大学生講習

弘前

近年多発する自然災害や感染症、原子力災害に

対応できる医師を育てるため、本年度から防災教育科目を創設している弘前大学は22日、同大体育館で医学部の学生ら約1



胸骨圧迫を切れ目なく続けるため、次の人に声をかける学生（中央）

になつている。防災、災害医療、被ばく医療に関する3科目があり、教員のほか県や気象台、防災士会などの専門家が災害知識を教える。

学生たちはこの日、弘前地区消防事務組合の協力を得て、胸骨圧迫や自動体外式除細動器（AED）などの心肺蘇生法を学んだ。同組合の職員から「胸は約5秒押し込む必要があり、目安は乾電池1本分」などとアドバイスを受けながら、人形の胸の間に手のひらを当て、一定のリズムで押し続けた。

体験した医学科の蝦名心寧さんは「何度やっても深く押し込むのは難しい。続けるのは1分が限界」と額の汗を拭いた。同科の明瀬優太さんは

「災害ボランティアに興味がある。防災士の資格を取り、困っている人を救いたい」と話した。

（高橋佑）

東奥日報社提供

この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

■連携教育施設におけるFD チラシ

弘前大学 医学部主催

# 令和5年度 弘前大学医学部連携教育施設 におけるFD

令和5年5月24日

午後4時30分～午後5時30分

現在、弘前大学医学部医学科では弘前大学医学部連携教育施設のご協力のもと、5・6年次学生が診療参加型臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）を行っています。今回は、医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的としてFDを開催いたします。



■実施方法 オンライン（Microsoft Teams）

■次第（1）挨拶

（2）説明

①弘前大学における医学教育の現状について  
鬼島 宏 弘前大学医学部医学科学務委員長

②診療参加型臨床実習の現状について  
富田 泰史 弘前大学医学部医学科副学務委員長

（3）学内臨床実習内容の紹介

（4）意見交換

対象者：青森県立中央病院において臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）をご担当いただいている指導医等

【お問い合わせ先】弘前大学医学研究科学務グループ

TEL:0172-39-5234/Mail:jm5234@hirosaki-u.ac.jp



弘前大学 医学部主催

# 令和5年度 弘前大学医学部連携教育施設 におけるFD

## 令和5年6月14日

## 午後4時30分～午後5時30分

現在、弘前大学医学部医学科では弘前大学医学部連携教育施設のご協力のもと、5・6年次学生が診療参加型臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）を行っています。今回は、医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的としてFDを開催いたします。



■実施方法 オンライン（Microsoft Teams）

■次第（1）挨拶

（2）説明

①弘前大学における医学教育の現状について

鬼島 宏 弘前大学医学部医科学務委員長

②診療参加型臨床実習の現状について

富田 泰史 弘前大学医学部医学科副学務委員長

（3）学内臨床実習内容の紹介

（4）意見交換

対象者：三沢市立三沢病院において臨床実習  
（クリクラⅠ・Ⅱ）をご担当いただいている指導医等

【お問い合わせ先】弘前大学医学研究科学務グループ

TEL:0172-39-5204/Mail:jm5234@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学 医学部主催

# 令和5年度 弘前大学医学部連携教育施設 におけるFD

令和5年7月12日

午後4時30分～午後5時30分

現在、弘前大学医学部医学科では弘前大学医学部連携教育施設のご協力のもと、5・6年次学生が診療参加型臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）を行っています。今回は、医学教育及び診療参加型臨床実習の現状等について相互理解を深めることを目的としてFDを開催いたします。



- 実施方法 対面方式
- 会場 弘前大学 本町キャンパス医学研究科 基礎棟大会議室
- 次第 (1) 挨拶
- (2) 説明
  - ①弘前大学における医学教育の現状について  
鬼島 宏 弘前大学医学部医学科学務委員長
  - ②診療参加型臨床実習の現状について  
富田 泰史 弘前大学医学部医学科副学務委員長
- (3) 学内臨床実習内容の紹介
- (4) 意見交換

対象者：健生病院、弘前総合医療センターにおいて臨床実習（クリクラⅠ・Ⅱ）をご担当いただいている指導医等

【お問い合わせ先】弘前大学医学研究科学務グループ  
TEL:0172-39-5234/Mail:jm5234@hirosaki-u.ac.jp

■医学教育センター主催FD チラシ

— 第1回 —  
医学教育センター主催FD

『共用試験（CBT・OSCE）  
公的化への対応』



◆ 日時：令和5年5月17日（水）  
18:00~19:00

◆ 場所：基礎大講堂

【お問い合わせ】医学研究科学務グループ  
内線:6002 E-mail: cchpe@hirosaki-u.ac.jp



— 第2回 —  
医学教育センター主催FD

『医学教育モデル・コア・カリキュラム  
(令和4年度改訂版)』



◆ 日時：令和5年 7月 19日 (水)  
18:00~19:00

◆ 場所：基礎大講堂

◆ 対象：医学研究科及び附属病院教職員

【お問い合わせ】医学研究科学務グループ  
内線:6002 E-mail: cchpe@hirosaki-u.ac.jp

# — 第3回 —

## 医学教育センター主催FD

(地域基盤型医療人材育成センター共催)

『文部科学省  
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」  
—多職種連携とDX技術で融合した  
北東北が創出する地域医療教育コモンズ—』

### 演者

医学研究科医学教育学講座	教授	鬼島	宏
医学研究科放射線診断学講座	教授	掛田	伸吾
被ばく医療連携推進機構 災害・被ばく医療教育センター	助教	辻口	貴清

- ◆ 日時：令和5年9月20日(水)  
18:00~19:00
- ◆ 場所：基礎大講堂
- ◆ 対象：医学研究科及び附属病院教職員

【お問い合わせ】医学研究科学務グループ  
内線:6002 E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp



— 第4回 —  
医学教育センター主催FD  
(地域基盤型医療人材育成センター共催)

『診療参加型臨床実習と  
地域基盤型臨床実習』

**講師** 高村 昭輝 氏

富山大学 学術研究部医学系医学教育学講座 教授

— 略歴 —

1998年 富山医科薬科大学 医学部医学科卒業  
2008年 南オーストラリア州立フリンダース大学  
教育学修士課程修了  
2018年 三重大学大学院医学系研究科・研究生  
博士学位取得修了



◆ 日時：令和5年 11月15日(水)  
18:00~19:00

◆ 場所：基礎大講堂

◆ 対象：医学研究科及び附属病院教職員  
学外臨床実習施設関係者

【お問い合わせ】医学研究科学務グループ

内線:6002 E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp

- 第5回 -  
医学教育センター主催FD  
(地域基盤型医療人材育成センター共催)

**講師** 長谷川 仁志 氏

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 医学教育学講座 教授

【演題】

初年次からの胸痛・臨床推論・医療面接OSCEにはじまる

県内デジタル教育ネットワークを活用したコンピテンス基盤型6年間一貫水平・垂直統合教育の試み  
ーカリキュラムオーバーロード時代に、如何に新モデルコアカリキュラムの質を保証して生涯向上させるかー



◆ 日時：令和6年 1月 17日 (水)  
18:00~19:00

◆ 場所：基礎大講堂

◆ 対象：医学研究科及び附属病院教職員

【お問い合わせ】医学研究科学務グループ  
内線:6002 E-mail:cchpe@hirosaki-u.ac.jp

令和4年度採択 文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」  
「多職種連携とDX技術で融合した北東北が創出する  
地域医療教育コモンズ」事業  
令和5年度 事業成果報告書

発行日 令和6年7月

編集・発行 国立大学法人弘前大学大学院医学研究科  
附属地域基盤型医療人材育成センター  
〒036-8562 青森県弘前市在府町5  
TEL 0172-39-5202 FAX 0172-39-5209  
E-mail cchpe@hirosaki-u.ac.jp  
Web <https://www.cchpe-hirosaki-u.jp/>

**【代表校】**

**国立大学法人弘前大学**

**【連携校】**

**国立大学法人秋田大学**

**【協力校】**

**学校法人弘前学院 弘前学院大学**

**学校法人弘前城東学園 弘前医療福祉大学**